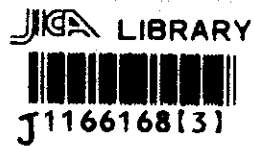


パナマ青年海外協力隊
巡回指導調査団調査報告書



平成12年12月

国際協力事業団

青年海外協力隊事務局

青二
JR
01-10

RY

青年海外協力隊巡回指導調査団調査報告書

(パナマ)



平成12年12月
青年海外協力隊事務局



1166168{3}

目次

隊員配置図

ノベ・ブグレ自治区地図

第1章 調査団の概要

- 1-1 調査団の概要
- 1-2 調査団の構成
- 1-3 調査日程

第2章 パナマ国におけるグループ派遣概要

- 2-1 先住民自治区に対する隊員派遣の経緯について
- 2-2 グループ派遣における問題点と対処方針
- 2-3 調査結果
- 2-4 今後の隊員派遣方針
- 2-5 技術顧問の所感及び提言

第3章 調査内容（プロジェクト・ノベ・ブグレ関連隊員）

- 3-1 関連機関との協議
- 3-2 ノベ・ブグレ自治区における隊員活動視察

第4章 調査内容（その他）

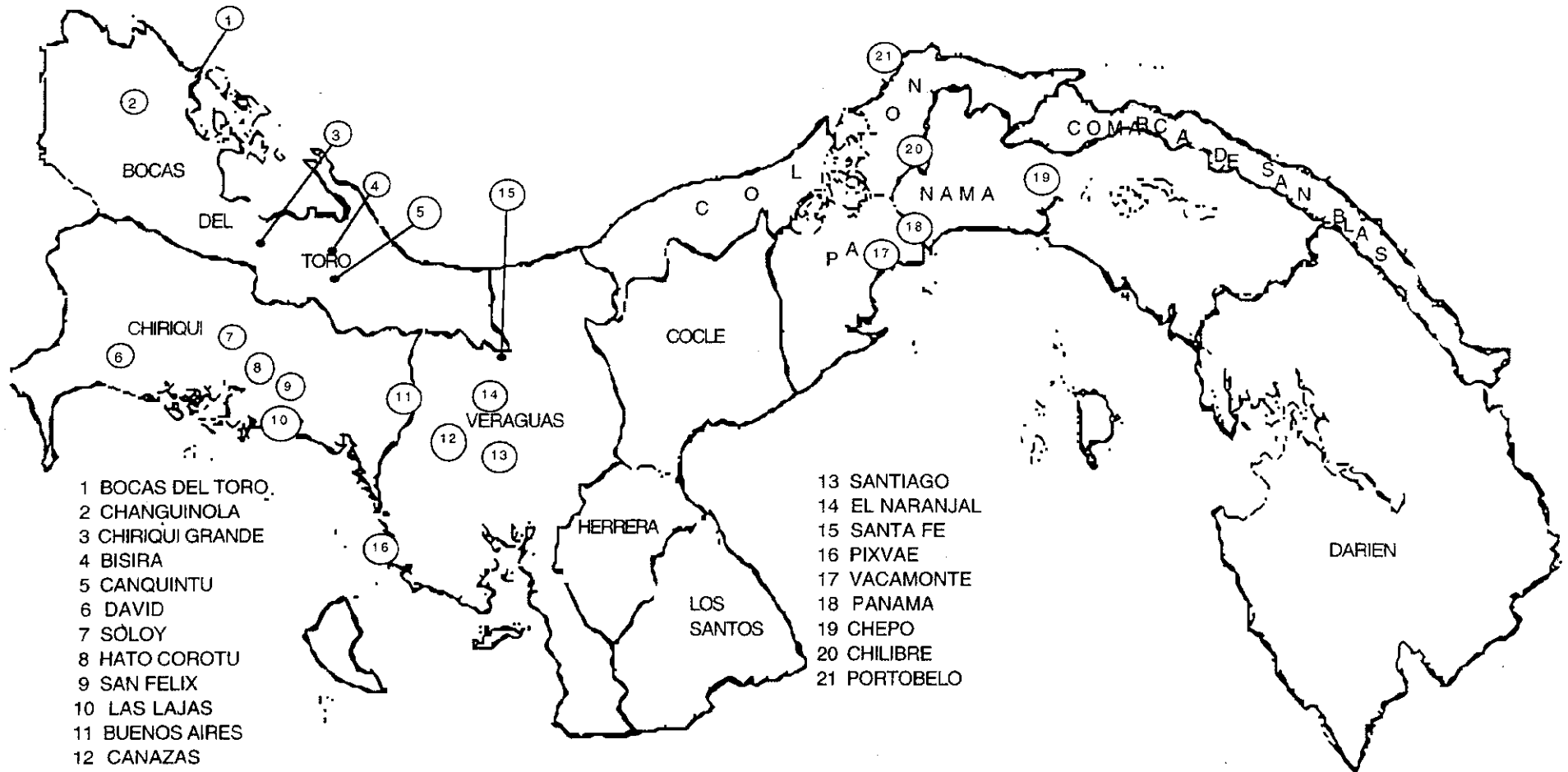
- 4-1 関連機関との協議
- 4-2 隊員活動視察

別添

- 1 グループ派遣
- 2 グループ派遣改訂案
- 3 経済財務省協議事項
- 4 調査報告書（経済財務省提出分）
- 5 開発福祉支援事業実施申請書
- 6 開発福祉支援事業報告
- 7 PNB との協議事項（隊員からの希望事項）
- 8 ノベ・ブグレ自治区における今後の行政構造について

隊員配置図

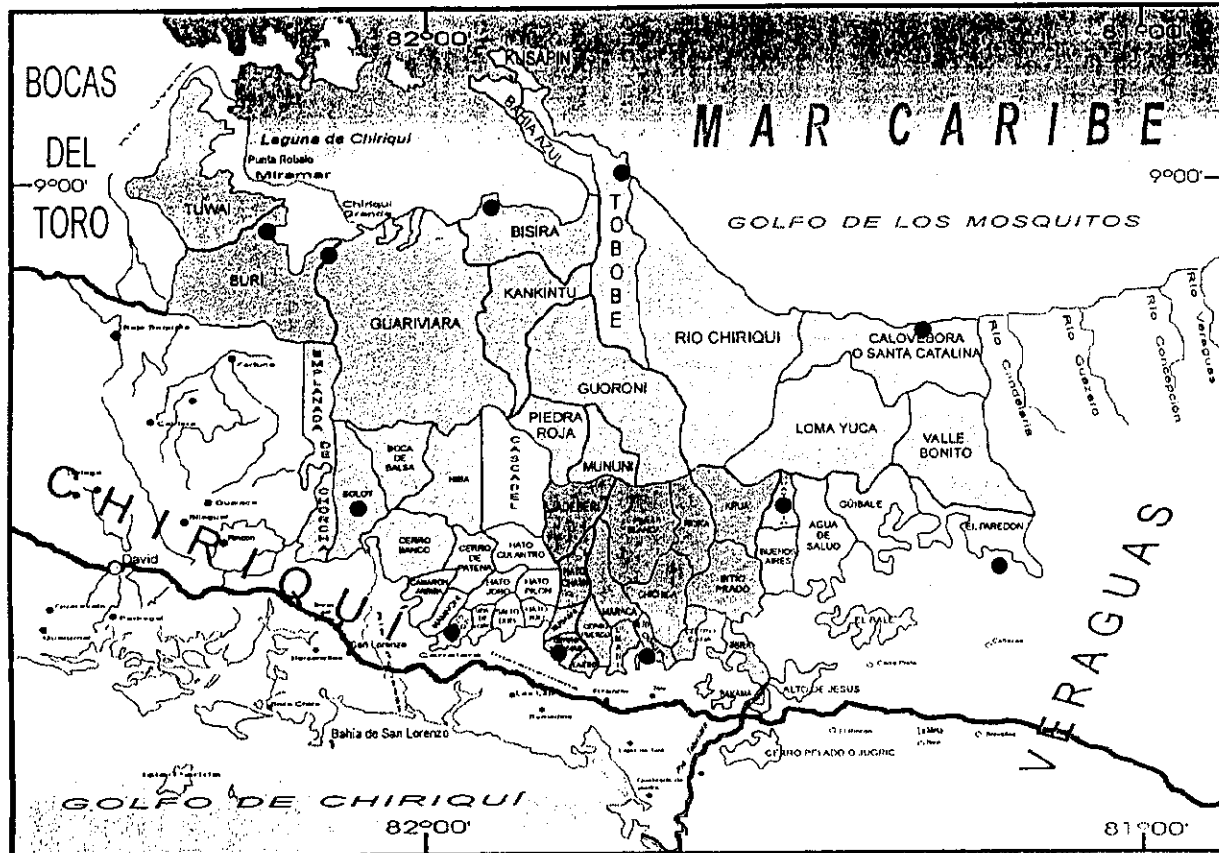
PROGRAMA DE VOLUNTARIOS JAPONESES PARA LA COOPERACION CON EL EXTRANJERO (JOCV)
03 DE ABRIL DE 2001



在任 番号	NO.	氏名 (和文)	氏名 (西文)	職種 (和文)	職種 (西文)	任期～	～任期	任地	配属先
1	1	中野愛理	Ms. Kanae NAKAMORI	栄養士	NUTRICOON	00.04.03	02.04.02	ボカス・デル・トロ	厚生省 (ボカス・デル・トロ支部)
2	2	北澤 匠	Mr. Taku KITAZAWA	漁業生産	METODOS Y APAREJOS DE PESCA	00.04.03	02.04.02	ボカス・デル・トロ	海運省 (海洋資源局沿岸漁業課)
2	3	大前一貴	Mr. Kazutomo OHASHI	上下水道設計	DISEÑO DE SISTEMAS DE DISTRIBUCION DE AGUAS Y ALCANTARILLADO	98.12.07	00.12.06	チャンギノール	厚生省 (ボカス・デル・トロ支部)
4	4	坂本 真一	Mr. Kazuichi SAKAMOTO	農芸	CULTIVO DE VEGETALES	99.07.12	01.07.11	チャンギノール	厚生省 (ボカス・デル・トロ支部)
3	5	西本 尚	Ms. Nao HAMAMOTO	栄養士	NUTRICOON	00.04.03	02.04.02	チリキ・グランデ	厚生省 (ボカス・デル・トロ支部)
6	6	山崎真智	Ms. Tamayoshi YAMAZAKI	看護師	ENFERMERIA	00.04.03	02.04.02	チリキ・グランデ	厚生省 (ボカス・デル・トロ支部)
4	7	新井圭介	Mr. Keisuke ARAI	耕作	CULTIVO DE ARROZ	98.12.07	01.05.06	ビシーラ	大規模府社会投資基金 (PNB)
8	8	松久大樹	Mr. Taiki MATSUHISA	村営開発委員	DESARROLLO DE LA COMUNIDAD RURAL	00.07.10	02.07.09	ビシーラ	大規模府社会投資基金 (PNB)
5	9	小林直樹	Mr. Hiroki KOBAYASHI	農業協同組合	COOPERATIVA AGRICOLA	99.07.12	01.07.11	ダビッド	大規模府社会投資基金 (PNB)
6	10	羽根秀仁	Mr. Hidehiko HANE	プログラムオフィサー	PLANIFICACION DE PROYECTOS	00.07.05	02.07.04	サン・フェリックス	大規模府社会投資基金 (PNB)
11	11	近藤智恵	Ms. Chie KONDO	農芸	CULTIVO DE VEGETALES	98.12.07	01.01.06	サン・フェリックス	厚生省 (チリキ支部)
7	12	大塚直之	Mr. Noriyuki OHKURA	農芸	CULTIVO DE VEGETALES	00.07.10	02.07.09	ラス・ラハス	職業訓練庁 (ラス・ラハス院)
8	13	宮田 謙	Mr. Susumu YOSHIDA	村営開発委員	DESARROLLO DE LA COMUNIDAD RURAL	00.04.03	02.04.02	ソロイ	大規模府社会投資基金 (PNB)
9	14	中田寛之	Mr. Atsushi NAKATA	農芸	CULTIVO DE VEGETALES	99.04.05	01.04.04	セロ・イグレシアス	大規模府社会投資基金 (PNB)
10	15	高井真子	Ms. Toko TAKAI	村営開発委員	DESARROLLO DE LA COMUNIDAD RURAL	00.04.03	02.04.02	アトコロック	大規模府社会投資基金 (PNB)
11	16	五味剛史	Mr. Tsuyoshi GOMI	村営開発委員	DESARROLLO DE LA COMUNIDAD RURAL	00.04.03	02.04.02	アエノス・アイレス	大規模府社会投資基金 (PNB)
12	17	大久保由子	Ms. Yumiko OOKUBO	家庭	ARTES DE HOGAR	98.12.07	00.12.06	サンチアゴ	経済訓練省 (ヌートレ・オガール)
18	18	杉村まゆみ	Ms. Mayumi SUGIMURA	農産物加工	PROCESAMIENTO DE PRODUCTOS AGRICOLAS	98.12.07	00.12.06	サンチアゴ	職業訓練庁 (エル・ボンゴ)
19	19	木野 学	Mr. Manabu KINOSHITA	理科教師	EDUCACION EN CIENCIAS NATURALES	00.04.03	02.04.02	サンチアゴ	文部省 (ワラカ高校)
20	20	宇藤康雄	Mr. Yasuo UJUFUJI	数学教師	EDUCACION EN MATEMATICAS	00.07.10	02.07.09	サンチアゴ	文部省 (ワラカ高校)
13	21	片岡貴子	Ms. Noriko KATAGI	村営開発委員	DESARROLLO DE LA COMUNIDAD RURAL	00.04.03	02.04.02	ナランハル	職業訓練省 (ベラグアス支部)
22	22	宮川真樹	Mr. Makoto MIYAKAWA	農芸	CULTIVO DE VEGETALES	00.07.10	02.07.09	ナランハル	職業訓練省 (ベラグアス支部)
14	23	宮川聖夫	Ms. Aya MIYAKAWA	農芸	CULTIVO DE VEGETALES	00.07.10	02.07.09	サンタ・フェ	協同組合庁 (ベラグアス農業研究所)
15	24	大坊直樹	Mr. Naoki OOHARA	村営開発委員	DESARROLLO DE LA COMUNIDAD RURAL	98.12.07	00.12.06	ロス・パジェス	経済訓練省 (ヌートレ・オガール)
16	25	高野 崇	Mr. Takashi TAKANO	木工	CARPINTERIA	99.04.05	01.04.04	ラ・ジェグアダ	職業訓練省 (ベラグアス支部)
17	26	長瀬一平	Mr. Kazuichi NAGASE	村営開発委員	DESARROLLO DE LA COMUNIDAD RURAL	99.04.05	01.04.04	サン・ロキート	職業訓練省 (コクレ地支部)
18	27	菅田幹平	Mr. Kazuhiro SUGIYAMA	養蜂	PSICOLOGIA	00.07.10	02.07.09	バカモンテ	農林開発省 (水産局太平洋水産研究所)
19	28	藤井 真	Mr. Hiroshi FUJII	理科教師	EDUCACION EN CIENCIAS NATURALES	98.12.07	00.12.06	パナマ・シティ	文部省 (アメリカ高校)
29	29	角上利村	Mr. Masatoshi Tsumura	システムエンジニア	INGENIERIA DE SISTEMAS	99.07.12	01.07.11	パナマ・シティ	産業開発 (情報部)
30	30	長瀬三司	Mr. Mitsunori NAGASE	システムエンジニア	INGENIERIA DE SISTEMAS	99.07.12	01.07.11	パナマ・シティ	職業訓練 (情報部)
20	31	藤原健子	Ms. Kenko FUJWARA	上下水道設計	DISEÑO DE SISTEMAS DE DISTRIBUCION DE AGUAS Y ALCANTARILLADO	99.12.06	01.12.05	チェボ	厚生省 (パナマ支部支部)
21	32	浜田成功	Mr. Michinari HAMADA	畜産飼育	CRIA DE ANIMALES	99.12.06	01.12.05	チリブレ	労働協会・リオカブヤ農場
33	33	佐藤環映子	Ms. Rieko SATO	畜産飼育	CRIA DE ANIMALES	00.04.03	02.04.02	チリブレ	特別養護庁 (農林教育センター)
34	34	堀西真樹	Mr. Norio HORII	農芸	CULTIVO DE VEGETALES	00.07.10	02.07.09	チリブレ	特別養護庁 (農林教育センター)
35	35	鈴木和子	Ms. Kazuko SUZUKI	製紙	REFORESTACION	00.07.10	02.07.09	チリブレ	特別養護庁 (農林教育センター)
22	36	原由美子	Ms. Yukiko HARA	栄養士	NUTRICOON	99.12.06	01.12.05	ボルトベロ	厚生省 (コロン支部)
23	37	大西志麻子	Ms. Shimako OHSE	理学療法士	FISIOTERAPIA	00.04.03	02.04.02	アイリガンディ島	厚生省 (クナ・ヤラ支部)
38	38	平井幹子	Ms. Kazuko HIRAI	看護師	ENFERMERIA	00.07.10	02.07.09	アイリガンディ島	厚生省 (クナ・ヤラ支部)
24	39	渡邊美咲	Ms. Misaki WATANABE	看護師	ENFERMERIA	00.07.10	02.07.09	ウストラップ島	厚生省 (クナ・ヤラ支部)

ノベ・ブグレ自治区地図

MAPA POLITICO DE LA COMARCA NGÖBE-BUGLÉ



● CENTROS DE DESARROLLO

DISTRITOS Y CORREGIMIENTOS DE LA COMARCA NGÖBE-BUGLÉ

LEYENDA:

- DISTRITO DE KANKINTÚ
- DISTRITO DE KUSAPÍN
- DISTRITO DE BESIKO
- DISTRITO DE MIRONO
- DISTRITO DE NOLE DÜIMA
- DISTRITO DE MÜNA
- DISTRITO DE NÜRÜN

LOCALIZACION NACIONAL



FUENTE: PROYECTO AGROFORISTAL NGÖBE-SANTI LIX CHIRIQUI, REPUBLICA DE PANAMA

ESCALA:



第1章 調査団の概要

1-1 調査団派遣の経緯と目的

パナマ国に対する協力隊派遣は1991年に開始された。派遣開始10年を迎えたが、この間、農林・水産、保健衛生、教育分野を中心に191名の隊員を派遣してきた。現在は、同国が貧富の格差が大きいことから、貧困対策を重点分野として、農林・水産、保健、教育分野で38名の隊員を派遣中である。

現在、協力隊事務局では、JICA全体で取り組んでいる国別地域別アプローチをより効果的にするために、協力隊を含むボランティア事業についても同アプローチに沿ったものにする 것을検討中である。国別事業実施計画では、重点セクター分析がなされたうえで、JICAによる投入計画が策定されているわけであるが、協力隊事務局では、国別事業実施計画における協力隊の位置づけを確認するとともに、いかにボランティア事業の独自性を保ちつつ相互補完的な協力を実施していくのか検討している状況である。

パナマ国の国別事業実施計画においては、貧困対策が主要課題として掲げられており、協力隊員がグループ派遣として取り組んでいる、パナマ国西部先住民居住自治区の地域開発プロジェクト「プロジェクト・ノベ・ブグレ(以下PNB)」支援は、国別事業実施計画と整合性が高い分野といえる。同グループ派遣では、協同組合をととした先住民の生活状況改善のために「村落開発普及員」「野菜」「稲作」「農業協同組合」等現在8名の隊員を派遣中である。グループ派遣開始から2年が経過した段階であり、貧困対策という同国の国別事業実施計画との整合性が高い分野であることから、今般の調査により、同グループ派遣の中間評価を行うとともに、国別事業実施計画との整合性について事務所及び関係機関と協議を行い、今後の同プロジェクトでの活動計画を策定する。併せて対パナマ国支援における協力隊の位置づけと協力隊員の派遣方針について確認する。

1-2 調査団の構成

団長 吉満 博（青年海外協力隊技術顧問）

企画調整 阪本 真由美（青年海外協力隊事務局海外第2課）

1-3 調査日程

日	時	場所	宿泊地	関係者	内容	備考
4日(月)	18:40	トクメン空港		川口・運転手	出迎え	CO1249
	19:30	ホテル・グラナダ		川口・運転手	チェックイン	
5日(火)	9:00	JICA事務所	パナマ	所長・川口・児玉・エリス	業務打合せ	
	10:00	日本大使館		未定	表敬訪問	
	11:00	ホテル・グラナダ		川口・運転手	チェックアウト	
	12:30	アルブルック空港着		川口・運転手		運転手1名は陸路でチリキ・グランデルへ移動・待機
	13:30	アルブルック空港発		川口		翌日アルミランテにて合流
	14:30	ボカス・デル・トロ着		中森隊員・北澤隊員・川口	活動視察	11日まで通しの運転手
6日(水)	7:00	ボカス・デル・トロ発	ボカス・デル・トロ	川口		12-2着任日
	7:30	アルミランテ		川口	中継地点	着任オリは児玉・エリス担当
	8:00	チャンギノーラ着		坂本隊員・川口・運転手	活動視察	10-2着任調達は児玉・エリス担当
	12:00	チリキ・グランテ発			中継地点	
	15:00	ビシーラ着		新井隊員・松久隊員・川口・運転手	活動視察	
				ビシーラ(寝袋)		
7日(木)	6:30	ビシーラ発				10-2着任日
	9:30	チリキ・グランテ着		山崎隊員・浜本隊員・小林隊員 川口・運転手	活動視察	
	13:30	プエブロ・ヌエボ着		小林隊員・川口・運転手	活動視察	
	18:00	ダビッド着				
8日(金)	8:00	ダビッド発	ダビッド			
	10:30	ソロイ着		吉田隊員・川口・運転手	活動視察	
	15:30	サン・フェリックス着		羽藤シニア隊員・川口・運転手	活動視察・PNB本部	PNBとの協議
		サン・フェリックス (可能なら羽藤シニア隊)				
9日(土)	8:00	サン・フェリックス発				
	9:15	クエリマ着		近藤隊員・川口・運転手	活動視察	
	11:45	アト・チャミ着		近藤隊員・中田隊員・川口・運転手	新機要請(厚生省及び中田隊員)	
	15:00	ラス・ラハス着		大森隊員・中田隊員・川口・運転手	下宿視察	
	16:00	アト・コロトック着		高井隊員・中田隊員・川口・運転手	活動視察	
	17:15	サン・フェリックス		中田隊員・川口・運転手	中継地点	
	18:00	セロ・イグレシアス着		中田隊員・川口・運転手		
		セロ・イグレシアス (寝袋)				
10日(日)	8:00	セロ・イグレシアス		中田隊員・川口・運転手	活動視察	
	9:00	セロ・イグレシアス発		川口・運転手		
	12:30	プエノス・アイレス着		五味隊員・川口・運転手	活動視察・一般短期要請確認	
	17:00	サンチアゴ着		川口・運転手		
11日(月)	7:30	サンチアゴ	サンチアゴ			
	11:00	サンタ・フェ着		本間隊員・中津隊員・川口・運転手	活動視察	
				吉川要矢隊員・川口・運転手	活動視察	
	15:00	ナランハル着		片田隊員・吉川夏樹隊員 川口・運転手	活動視察	農薬部会モデル圃場視察
		サンチアゴ着				
12日(火)	7:00	サンチアゴ発	サンチアゴ			
	9:00	ラ・ジェグアダ着		真柄隊員・川口・運転手	活動視察	
	14:00	パカモンテ着		福田隊員・川口・運転手	活動視察	
	16:00	パナマ着				
	16:30	JICA事務所		川口・児玉・エリス	業務打合せ	
	18:00	ホテル・グラナダ		運転手	チェックイン	
13日(水)	8:00	ホテル・グラナダ発	パナマ			
	10:00	ポルトベロ着		原隊員・児玉・運転手	活動視察	
	13:00	チリブレNO.1着		濱田隊員・児玉・運転手	活動視察	
	14:15	チリブレNO.2着		佐藤隊員・鈴木隊員・葛西隊員 児玉・運転手	活動視察	
	16:30	パナマ着				
14日(木)	8:30	ホテル・グラナダ発	パナマ			
	9:00	検査庁		兵藤隊員・児玉・運転手	活動視察	
	10:30	国家警察		勇上隊員・児玉・運転手	活動視察	
	13:30	大塚補府社会投資基金		川口・運転手		協議
	15:30	JICA事務所		所長・川口・児玉・エリス	報告会	
	17:30	ホテル・グラナダ着				
				パナマ		
15日(金)	4:30	ホテル・グラナダ発		児玉・エリス	移動はタクシー利用	
	5:00	アルブルック空港着		児玉・エリス		
	6:00	アルブルック空港発		児玉・エリス	国内便移動	
	9:00	アイリガンディ島着		大西隊員・宇井隊員・児玉・エリス	活動視察	
	13:00	ウストゥップ島着		渡邊隊員・児玉・エリス	活動視察	移動はボート
	16:00	アチュトゥップ島着		児玉・エリス		移動はボート
		アチュトゥップ島				
16日(土)	7:30	アチュトゥップ島発		児玉・エリス	国内便移動	
	9:30	アルブルック空港着		児玉・エリス・運転手		
	11:00	チェボ着		岡塚隊員・児玉・運転手	下宿視察(活動視察)	
	16:00	パナマ着				
17日(日)	8:00	ホテル・グラナダ発		児玉・運転手	チェックアウト	
	8:30	トクメン空港		児玉・運転手	出発見送り	

第2章 パナマ国におけるグループ派遣概要

パナマ先住民自治区に対する、グループ派遣が開始され、二年が経過した。今般の調査では、協力隊のグループ派遣について評価5項目（効率性、目標達成度、インパクト、妥当性、自立発展性）から評価し、その結果を踏まえ、今後のグループ派遣の方向性を見極めることを目的としている。また、隊員が中心となって関わっている開発福祉支援事業が今年度末に終了することや、隊員が配属されている PNB の実施期間が 2001 年 3 月までとなっているところ、PNB の状況を把握すると同時に今後の隊員受入について検討する。

2-1 先住民自治区に対する隊員派遣の経緯について

(1) ノベ・ブグレ自治区に対する隊員派遣の経緯について

パナマ国西部のチリキ県 (chiriqui)、ボカス・デル・トロ県 (Bocas del Toro)、ベラグアス県 (Veraguas) の3県にまたがり、ノベ族 (Ngöbe) 及びブグレ族 (Buglé) と呼ばれる先住民が居住している。ノベ族、ブグレ族の長年にわたる自治交渉の結果、1997 年に「コマルカ (自治区)」法¹が承認され、自治が認められた²。自治区内の行政機構は未だ制定過程にあるものの、自治区内における行政区分については、カシーケとよばれる長老を中心とする伝統的行政区分と、近代行政区分が並列的に存在することが予想される。自治区の最高行政機関は議会 (Congreso General) である。従って、ノベ・ブグレ自治区における隊員活動は、パナマの先住民居住地区ということで、二重の意味で異文化における活動であるといえる。

(表1) ノベ・ブグレ自治区面積、人口、人口密度 (2000 年国勢調査)

	面積 (km ²)	人口 (人)		人口 (人/km ²)	
		1990	2000	1990	2000
自治地区	6672.8	72,450	110,619	10.9	16.6
Nedrin	1149.8	28,630	36,839	24.9	32
Kodri	1409.4	24,598	39,196	17.5	27.8
No-Kribo	4113.7	19,222	34,584	4.7	8.4

(出所：プロジェクト・ノベ・ブグレ)

ノベ・ブグレ自治区への青年海外協力隊の派遣は、1995 年にプログラムオフィサー隊員 (7/1・須田香代子) が派遣先の経済企画庁 (MIPPE) チリキ県事務所においてチリキ県の社会開発調

¹ Ley No10, 1997

² 全ての地区の自治が認められたわけではなく、いくつかの自治については、引き続き交渉が続けられている状況である。

査に取り組んだことに端を発する。同隊員が担当した地区は、パナマでも先住民が多く居住する最貧困地区であり、具体的な支援が何も実施されていない状況であった。隊員は、直接先住民に対する支援を開始するための方策を考え、ノベ・ブグレ族の生活向上に取り組んでいた PNB に出向という形で活動を開始した。隊員は、「先住民が自分たちの環境・生活状況を理解し、自分たちの力でなんらかの組織を作り、自分たちのためのプロジェクトを実施し、必要があれば柔軟にそのプロジェクトを変更できるようになる」ためにサポートすることを目標に活動した。活動を進めるに従い、先住民居住地区において継続して多角的な隊員派遣を含め様々な支援を行うことが同地区の生活向上に貢献するとの判断から、「村落開発普及員」「野菜」「稲作」等の様々な職種の複数隊員派遣要請開拓を行い、また、開発福祉支援事業実施案を提示した。

(2) 開発福祉支援事業と隊員との関係について

1998 年に、JICA の NGO 支援スキームである「開発福祉支援事業」による PNB 支援が決定され、1998 年 2 月に PNB と JICA の間で事業実施が合意された。「開発福祉支援事業」とは、日本の社会開発福祉分野での経験を生かし、途上国の福祉分野における貢献を意図した事業で、在外事務所が事業の計画、実施を管轄し、地域に根ざした活動を行っている NGO に事業を委託するものである。開発福祉支援事業による PNB 支援が決定した際の報告書によると、PNB は NPO という位置づけであり、協力隊員についても NPO 支援という認識のもと派遣してきた。しかしながら、PNB の実態は NPO ではなく 1994 年パナマ国と国際農業開発基金 (IFAD) との間で締結された借合意に基づき開始した地域開発プロジェクトであった。PNB は、35名のスタッフを抱えており、「生産開発部門」「組織化・研修部門」「環境部門」「基礎インフラ整備部門」「フォロー・評価部門」「資金・研修部門」の6部門から構成されており、担当スタッフの殆どが、ノベ・ブグレの人々という特徴があった。

パナマにおける「開発福祉支援事業」の具体的内容は、ノベ・ブグレ自治区のうちソロイ地区、プエノス・アイレス地区、セロ・イグレシアス地区、プエプロ・ヌエボ地区、ピシーラ地区の5地区にて、1998年から2000年にかけての3年間、協同組合の組織化、農業センターの設置、市場の開催のための支援を行うことであった。事業の実施は NGO に委託するという事業の性質上、協力隊員活動とは分けて考えられていた。

しかしながら、自治区で活動する隊員数は要請に基づき増加し、現場では日本からの援助という性質上、開発福祉支援は協力隊員とがセットで捉えられていたことから、開発福祉支援事業によるプロジェクトに協力隊員が補助的に関与せざるを得ない状況になった。

(3) グループ派遣

自治区に対し、複数の隊員が派遣されるようになり、開発福祉支援事業の実施、運営が、隊

員活動の中心業務となるケースすらみられるようになると、隊員側から開発福祉支援事業にどこまで関わるべきか、と疑問が提示されるようになった。そこで、開発福祉支援事業との関わり合いを明確にし、また、隊員間で同様の目的意識を持って活動できるようにと、協力隊事務局とパナマ事務所との間で、派遣中隊員のグループ化について協議し、最終的に 1999 年に、複数派遣隊員をとりまとめ、その活動サイト、活動目的などを明確にしたうえでグループ派遣とした。しかしながら、グループ派遣開始時に隊員の活動状況調査を行っておらず、グループ派遣に対する各々の隊員のコンセンサスが得られないままであった。このため、グループ派遣の内容は、開発福祉支援事業と重複しており、活動目的は開発福祉支援事業の事業目的と同じ協同組合育成であり、また、隊員活動サイトも開発福祉支援事業実施サイトであるビシーラ村、プエブロ・ヌエボ村、ソロイ村、セロ・イグレスias村、プエノス・アイレス村という同じモデル村であった。

須田隊員の後任にあたるプログラム・オフィサー隊員（9/2・常見佳代隊員）が 1997 年に派遣され、村落開発普及員や野菜隊員など複数の隊員とともに開発福祉支援事業を含む、先住民のための様々なプロジェクトの業務調整に取り組み始めた。各隊員は、PNB の現地での活動推進拠点である「開発センター」（Centro de Desarrollo）を中心に、現地のコーディネーター（Cordinador）とともに活動を展開した。この「開発センター」とは別に、開発福祉支援事業により農業生産物の集積・販売、食堂を備えた「農産物収集センター」（Centro de Acopio）が作られたことから、隊員は、「農産物収集センター」の活性化を中心に活動を展開していった。しかしながら、農産物収集センターが作られたものの、現地には販売可能な余剰農業生産物が殆どなく、また、組合員の殆どは「開発センター」が管轄地区に散住しており、アクセスの問題からも、農産物収集センターを利用するために荷物を輸送することは困難な状況であったからである。また、余剰生産物が殆どないため、商品として扱えるのは伝統工芸品の網鞆（チャカラ）、女性の民族衣装（ナグァ）、コーヒーなどに限られていた。また、開発福祉支援事業は組合育成を目的としていたが、育成すべき協同組合それぞれが、異なる組合育成の段階を迎らなければならなかったが、それにも関わらず、プロジェクト内部には事業専属の人材がいない状況であった。このほか隊員は、水田、センター内のレストランの活用、定期市などの取り組みを開始した

(表2) 協力隊派遣実績

氏名	隊次	職種	任地
須田香代子	7/2	プログラムオフィサー	チリキ県ダビッド
石黒貞光	7/3	稲作	ボカス・デル・トロ県ビシーラ
常見 佳代	9/2	プログラム・オフィサー	チリキ県ダビッド
高砂 大	9/3	村落開発普及員	ベラグアス県ブエノス・アイレス
矢部順子	10/1	村落開発普及員	チリキ県ソロイ
加藤貴子	10/1	植林	ボカス・デル・トロ県ブエプロ・ヌエボ
新井圭介	10/2	稲作	ボカス・デル・トロ県ビシーラ
中田篤志	10/3	野菜	チリキ県アト・チャミ
小林浩樹	11/1	農業協同組合	ボカス・デル・トロ県ブエプロ・ヌエボ
五味剛	11/3	村落開発普及員	ベラグアス県ブエノス・アイレス
高井東子	11/3	村落開発普及員	チリキ県アト・コロトゥ
吉田進	11/3	村落開発普及員	チリキ県ソロイ
松久大樹	12/1	村落開発普及員	ボカス・デル・トロ県ビシーラ
羽鹿秀人	シニア	プログラム・オフィサー	チリキ県サン・フェリックス

2-2 グループ派遣における問題点と対処方針

(1) 問題点

PNB にて活動中の複数隊員をグループ派遣として取り扱ってきたが、PNB に対し開発福祉支援事業という支援スキームを利用したモデル事業が実施されたことから、グループ派遣の対象となる隊員の範囲やグループ派遣の活動目標が、開発福祉支援事業の事業サイトや事業目標と重複している等の問題が見受けられる。さらに、隊員の活動範囲が地理的に広範にわたることから、業務調整などが困難な状況である。

また、現在、隊員が活動している PNB は大統領府社会緊急基金 (FIS) と農業開発国際基金 (IFAD) との借款合意により設立されているが、その合意の期限が 2001 年 12 月までのところ、その後の PNB の動向が懸念されている。

(2) 対処方針

先住民自治区に対する支援については、同自治区が貧困地区であり援助の必要性が高いこと、貧困問題解決が協力隊の取り組むべき重点課題として挙げられていることから、今後も継続した隊員派遣が望ましいと思われる。しかしながら、PNB に対する今後の隊員派遣及びグループ派遣については今般の調査結果をふまえ事務所と協議することとする。

まず、隊員の派遣先である PNB に対する IFAD からの継続支援の可能性については、社会緊急投資基金（FIS）及び PNB との協議により確認することとする。その際に、IFAD からの継続支援がなく、PNB が終了した場合の協力隊の受入体制についても確認する。

また、グループ派遣については、現在派遣中の隊員の活動状況を視察したうえで、評価 5 項目から評価するとともに、今後の派遣方針について検討する。その際には、PNB 終了後という事態を想定したものとし、開発福祉支援事業の事業実施計画を踏襲されていると思われる、現行のプロジェクトの目的、プロジェクト・サイト、協力活動内容等の見直しをはかる。

2-3 調査結果

今般の調査は、協力隊のグループ派遣について隊員が実施した開発福祉支援に係る評価報告、隊員及び配属先の聴き取り調査に基づき評価 5 項目（効率性、目標達成度、インパクト、妥当性、自立発展性）から評価すると同時に、今後のグループ派遣の方向性を見極めることを目的としている。

なお、協力隊員のグループ派遣と開発福祉支援事業は密接に関わっており、グループ派遣について検討するにあたっては、開発福祉支援事業と切り離して検討することは難しい。

（1）効率性

開発福祉支援事業により建設された、農産物収集センターとその内部の売店、レストランは、殆ど収益をあげておらず、センターの運営や利用方法も定かではない。運営管理にあたるはずの組合にどれが該当するのか自体明確でない。各村には、PNB により建設された開発センターが既に集会所として認められ、幅広く活用されているため、開発福祉支援事業による農産物収集センターに同様の活路を見いだすのは難しい状況である。

また、グループ派遣のモデル村が地理・文化的条件が異なるアクセスも困難な 5 村のため、活動推進にあたり、隊員間の連携がとり難いという非効率な要素が見られる。

プエブロ・ヌエボ村及びビシーラ村においては、隊員が、組合の会計指導、物流指導に取り組んでいるが状況は改善されていない。開発福祉支援事業の実施に伴い、隊員が各プロジェクトを見直し、その結果実施された、水田、コーヒー皮剥き機、精米機については、活用されているが、組合員による機材管理運営についてはセンター同様、管理組合が不明で効率性を欠いている。

(2) 目標達成度

グループ派遣の目標であり、かつ、開発福祉支援事業の目標でもあった「協同組合育成」は、これまでのところ殆どすべての地区で失敗であった。この理由としては開発福祉支援事業実施にあたっての前提であった「協同組合」についての実施前の調査不足が挙げられる。ノベ・ブグレ自治区における組合の実態は以下のとおりである。

- ・ 各協同組合が、PNBの資金貸し付けのために急速あるいは即席に組織化されたものである。
- ・ 住民側の組合に対するニーズが明確化されていない。
- ・ 組合員と組合の事業の直接の受益者と一致しない。
- ・ 財政基盤が外部の資金にあり、資金の使用方法が複雑である。

但し、組合事業というものについては、集会で物事を決定する、組合員が組合の運営に協力しなければならないという意識は広く持たれている様子である。

(3) インパクト

組合育成については、そもそもの組合に関する問題があるが、協力隊員の支援により、ピシ一ラ村の住民は、米の精米・販売に係る知識を得ることで、その結果精米に関しては現地住民が管理できる状況である。また、ソロイ村では、開発福祉支援事業によりコーヒー豆の皮むき機や乾燥機が導入され、その利用方法や管理運営指導を隊員が実施したことにより、生産者の収入が増加することは確実だといえる。上記2案件については、充分住民にインパクトを与えており、周りの村から問い合わせが来るに至っている。

(4) 妥当性

PNBに対する隊員派遣の妥当性については、配属先が、先住民で組織されていたということから、先住民地区における活動をスムーズにさせたという点では評価される。しかしながら、配属先が大統領府管轄のNGO(NPO)ではなく、期限付きの(いち)プロジェクトであったことから、長期的な視点からの活動計画を欠くといえる。

PNBに対し開発福祉支援事業による支援が投入された時点で隊員と開発福祉支援事業との関わりを明確にする必要があった。そもそも、開発福祉支援事業のプロジェクト・デザインはPNBサイドにまかせきりになっており、その後具体的に現地状況と進捗状況を把握しておくべきであったのに、それが実施されずに資金投入されたため、実態にそぐわない支援となってしまったといえる。

(5) 自立発展性

ノベ・ブグレ自治区に対する隊員グループ派遣については、グループ派遣の目的を達成したとはいえ、この背景にはグループ派遣に先立つ事前調査不足の感は拭えない。また、グループ派遣の実態が隊員の複数派遣であり、そこに開発福祉支援事業が実施されたことから開発福祉支援事業をフォローさせる形で隊員を位置づけた点に問題があったといえる。従って、グループ派遣の目標であった「協同組合育成」という側面から自立発展性を検討するならば、組合の自立発展性は決して高くない。しかしながら、個々の要請に基づく隊員活動状況は良く、個々の事業に対する隊員活動の結果として個々の事業に対する自立発展性は今後期待できる。

2-4 今後の協力隊員派遣方針

開発福祉支援を含む調査結果を検討すると、現在パナマ国にて実施中のグループ派遣の活動評価は低いものとなるが、これは、グループ派遣が開発福祉支援事業と同一の内容となっているためといえる。つまり、問題は開発福祉支援事業実施当初のプロジェクト・デザインにあったといえる。一方、個々の隊員活動は順調で、隊員の努力があったために、開発福祉支援事業に対する見直しが可能になり、その結果として開発福祉支援事業の中にうまく機能するプロジェクトが散見されるようになった。隊員活動が開発福祉支援をフォローするには大きな効果を示したといえる。また、グループ派遣という派遣形式で活動していることが、互いの活動を推進するうえで協力しあい、共に問題解決に向かうという側面で大きな効果をあらわしている。

PNB に対する隊員派遣については、PNB スタッフの殆どが先住民であり、ノベ・ブグレ社会に通じた組織であることから、PNB のスタッフとともに活動することにより先住民社会における隊員活動はスムーズに行うことができた。しかしながら、PNB は NGO (NPO) ではなく、単なる時限的プロジェクトにすぎないことから、長期的視野に基づく開発計画が作られておらず、隊員の受入についても、プロジェクト終了後の体制まで視野には入れられていない。このことから、PNB に対する隊員配置については、PNB の今後の継続状況を踏まえ検討する必要がある。

PNB 終了後の隊員の受入について、隊員の受け入れ先であり、PNB を管轄している大統領府緊急投資基金 (FIS) に照会したところ、PNB フェーズ 1 は間もなく終了するが、フェーズ 2 が開始するかはまだ不明である。FIS としては、PNB 自治区における隊員活動を高く評価しており、万一フェーズ 2 が開始されない場合でも、FIS が受け入れ先として責任を持つとの回答を得た (本件については、追って事務所に確認のレターが提出される予定)。

本グループ派遣を今後継続するにあたっては、プロジェクト内容及びプロジェクト・サイト等大幅な見直しを図る必要がある。グループ派遣として取り組んだ 5 村のうち、セロ・イグレ

シアス村については、現在隊員が全くフォローしていない状況であり、また、プエブロ・ヌエボ村に対する隊員派遣も現在活動中の隊員で終了する予定である。一方、ビシーラ村、プエノス・アイレス村、ソロイ村については現在隊員が実施しているプロジェクトが今後も継続することが期待される。また、アト・コロトゥ村、アト・チャミ村については、新たに隊員が活動を展開している村のためこれらの村について、新たにプロジェクト・サイトのモデル村として加えることも有効と判断される。

今後の隊員派遣を考えるにあたっては、協力隊としてもノベ・ブグレの社会構造及び行政構造に関するより緻密な調査を行いノベ・ブグレの人々の特性を把握しておく必要がある。その際には、現在行っている PNB を通した隊員派遣のあり方についても検討する必要がある。ノベ・ブグレ自治区における行政システムが現在形成中という状況のところ、その状況を見つつ、コミュニティー・レベルでの生活向上につながるのに有効な隊員派遣について、考える必要がある。なお、ノベ・ブグレ先住民自治区に対しては、今後は厚生省を通した隊員派遣も想定されるが、グループ派遣範疇に、(1) 地方開発部門 (2) 保健衛生部門という棲み分けを設けて支援することも重要と思われる。

最後に開発福祉支援と隊員派遣との関連だが、パナマ国における開発福祉支援事業は事業を失敗させないように、なんとかしようという隊員の努力があって失敗に終わらなかった例と思われる。隊員参加が中心となるこのような開発福祉支援事業の案件に、当初からプロジェクト・デザインに協力隊員が含まれていたとしたら、異なる展開が期待できたはずである。パナマ国での経験から、今後、同事業の実施において協力隊員が関与することは極めて有益と判断されるが、その場合は、事業実施当初から事業と協力隊との関係を明確にすること、そして協力隊員による提案が適宜プロジェクトにフィード・バックされるシステムを構築する必要がある。

2-5 技術顧問の所感及び提言

パナマの先住民であるノベ・ブグレ族に対して、協力隊のグループ派遣および開発福祉支援事業が開始されるようになったのは、1995年に赴任した一人のプログラムオフィサーの献身的な活動からである。

パナマ国西部の3県にまたがる先住民自治区及びその周辺地域は、いわゆる瘴癘の地で、環境的に極めて厳しく、パナマでも最貧の地域である。彼等は固有の文化を持ち、独自の生活様式を営んでいる。当該地には、約10名の隊員が活動中であるが、そこに住んでいるというだけでも賞賛に値するほど劣悪な住環境である。

我々調査団は、皮膚の中に入り込む目に見えない虫“コルラディージャ（現地名）”に刺されるのを防ぐため、大変な蒸し暑さを我慢して、完全武装で隊員の任地を訪問したのだが、上半

身裸で村人と談笑している隊員、虫に刺されてボコボコに腫れている二の腕をボリボリ掻きながら仕事に熱中している隊員、虫刺されからくるアレルギーで二度も顔面を手術しても少しもたじろがない女性隊員、村民の家族と一緒に土間に寝る隊員等々、隊員たちは皆、実にたくましくかつ生き生きと住民の中に溶け込んで仕事をしており、少しでも住民の役に立ちたいという彼等の思いがこちらにひしひしと伝わってきて流石、協力隊員だと感動し、また、誇りにも思った。

任地に行くのにボートで海を渡り、川を遡る以外に手段がなく悪天候でもないのに小船が揺られて頭から波をかぶりつづけ身の危険を感じる場面もあった。

約 7,000Km²に及ぶ広大な地域で、原始的な生活を営む約 11 万人のインデヘナの人々への協力が一朝一夕に効果を上げることは難しい。

隊員達は、水田の造成や稲作の指導、野菜栽培、養鶏、伝統工芸品の販売、精米機やコーヒー皮剥き機等の使用法、生活改善のための種々の企画、組合育成等に毎日走り回って悪戦苦闘している。

新しいスキームである開発福祉支援事業に対しても、隊員が全面的に協力したため、隊員が関わる指導分野では大方の目的を達成することができた。しかし、村人が独力で協同組合を運営し、建設された農産物収集センターを活用していくには“未だ道遠し”の感がある。

平成 12 年 7 月にはグループリーダーとしてシニア隊員が派遣されて PNB 本部に所属し、PNB と隊員、および隊員間の連絡調整を行うようになり、協力効果が向上してきている。

プロジェクト・ノベ・ブグレは、2002 年 6 月には第 1 フェーズの延長期間が終了するが、第 2 フェーズが始まるのかあるいは新たな枠組みなるのかは未だ定かではない。いずれにせよ自治区の行政組織の維持、強化が図られることは間違いないものと思われる。

パナマでも最貧地域であるノベ・ブグレ自治区には、日本以外の援助はなされていない。日本の協力隊がはじめて本格的な協力を行っているこのプロジェクトは、開発のモデル事業として極めて意義あるものであり、当該活動を通じ、僻地先住民の生活向上のための協力の在り方について多くの示唆を得ることが可能になるものと思われる。隊員の配属先が明確になった段階で、グループ派遣をチーム派遣に格上げして、より効果的な協力を行うべきであろう。また、必要に応じて協力隊事務局ばかりでなく JICA 全体で、場合によっては、開発福祉の継続性からも内外 NGO と連携する等 JICA の枠を超えて長期的視点で取り組むべき案件ではなかろうかと思料する。

今回の調査団は、協力隊事務局の国担当職員が出来得る限り全隊員の活動状況を視察したいとの強い意欲から、現地 JICA 事務所も驚くほどの強行日程であった。したがって、先住民自治区以外の隊員の活動現場も多く訪問する事ができた。

隊員受入れ先の調査不足から、高い技術を持ちながら能力を十分発揮できないでいる隊員や、

スペイン語の能力不足から意欲を喪失している隊員が1, 2散見されたが、全体的にパナマ隊員の質は高く、順調に協力活動が行われているとの印象を受けた。

なお、パナマのJICA事務所では、国別事業実施計画の中に、協力隊をはっきり位置づけているが、JICA本部では、歴史的な経緯もあって国別事業実施計画から協力隊は未だ除外されている。今後は、本部でも、より緊密な連携をとって一本の事業計画にまとめる必要があろう。

第3章 現地調査内容（プロジェクト・ノベ・ブグレ）

3-1 関連機関との協議

（1）プロジェクト・ノベ・ブグレ(Proyecto Ngobe-Bugle)

隊員 羽鹿秀仁シニア隊員（12年度シニア隊員・プログラムオフィサー）

面談者： Lizca Binns(所長)

Medaro Hooker(資金、研修部長)

Mitzity Tugri(フォロー、評価担当)

Noris Samudio(人的資源担当)

1994年、パナマ国とIFADの間で締結された借款合意に基づき開始したのが「ノベ・ブグレ地域開発プロジェクト(PNB)」である。PNBには、35名のスタッフがおり、「生産開発部門」「組織化・研修部門」「環境部門」「基礎インフラ整備部門」「フォロー・評価部門」「資金・研修部門」の6部門から構成されている。プロジェクト実施期間は、2000年6月までであったが、延長され、2001年12月まで、また管理部門については、2002年6月までの延長が承認された。これらの人員の雇用期限についても2002年6月まで延長した。プロジェクトの終了とともに第二フェーズへの取り組みを開始するべく現在取り組みを始めたところである。

PNBの拠出金は、大部分が、国際農業開発基金(IFAD)の出資によるものであるが、昨年の大統領選挙後スタッフの大部分が入れ代わったため、プロジェクト管理に対する不信感をIFADが示している状況である。PNB第2フェーズの実施については、PNB第1フェーズ終了時評価に基づき決定される。(3月に実施予定)。但し、この点について、PNBサイドは楽観視している様子であり、IFADからの継続支援がなかった場合についても、政府側からPNB存続についての何らかの可能性が打診される可能性があるとのコメントであった。また、それすら難しい場合は、大統領府社会投資基金(FIS)の自治区代表組織として存続する可能性を模索するとのことであった。

（2）大統領府社会投資基金(FIS)

面談者：Arulfo Escalona A.(FIS長官)

Manuel Muños(機関間調整部長)

PNBの終了時評価がIFADにより2001年3月に実施される予定である。PNB第1フェーズの実施については、同終了時評価の終了とともに、終了する予定である。プロジェクトの第2フェーズの開始については、IFADの終了時評価を待ってからでないと分からず、FISとしても、同プロジェクトの融資先を模索しているものの、現時点では不明である。

青年海外協力隊の業務内容については、「協同組合支援」との認識であったため、生活改善

支援であると訂正。プロジェクト終了後上位省庁としての協力隊受け入れについて、協力隊事業及び隊員の活動状況を説明のうえで照会したところ、FIS としても協力隊員の活動に強い関心を持っており、ワー PNB 第 2 フェーズがなかったとしても、FIS が自治区にて今後世銀の資金をもとに実施予定の「貧困解決、研修計画」に協力隊員が関与する等の方法で便宜を図りたい旨、また、その際には住居費及び交通費については FIS の負担が可能な旨のコメントがあった。この他、ノベ・ブグレ自治区以外に、FIS での業務調整としての隊員派遣の可能性などについての照会があった。

3-1 ノベ・ブグレ自治区における隊員活動視察

隊員活動サイト	隊員名（隊次・職種）	開発福祉支援事業関連活動	その他の活動
プエブロ・ヌエボ	小林浩樹（11/1・農業共同組合）	農業収集センターの活用、売店経営指導、施設利用費の収集、組合運営指導	伝統工芸品販売指導
ビシーラ	新井圭介（10/2・稲作） 松久大樹（12/1・村落開発普及員）	組合指導、精米器などの活用指導	農民グループに稲作指導
ソロイ	吉田進（11/3・村落開発普及員）	コーヒー皮むき機活用指導、 農業収集センターの活用 自由市、レストランの活用	伝統工芸品販売指導
セロ・イグレスias	中田篤志（10/3・野菜）	養鶏プロジェクト	
プエノス・アイレス	五味剛（11/3・村落開発普及員）	水田プロジェクト 農業収集センターの活用	
ト・チャミ	中田篤志（10/3・野菜）		農民グループに野菜栽培指導
アト・コロトゥ	高井東子（11/3・村落開発普及員）		生活向上委員と生活改善 業務企画、組合の経営指導
サンティアゴ	羽鹿秀仁（シニア隊員）	プロジェクト本部にて業務調整	

（表 3）ノベ・ブグレ自治区隊員活動状況

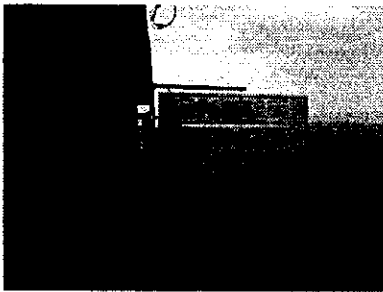
（1）プエブロ・ヌエボ

隊員： 小林浩樹隊員（11/1・農業協同組合）

・セマコ協同組合（Coop de S. M. Ngobe- CEMACO R.L.）

海に面して建つ農業センター。建設費 23893.55 ドルのうち開発福祉支援事業で半額、PNB 側も半額拠出した。建物内には当初レストランを作る予定であったが、1999年のプロジェクト査定時に係る予算が削られ中止となり、現在は、売店、コピー、施設利用費（宿泊料、会員\$0.75,組合員以外\$1 トイレ使用料 C10 シャワー使用料 C25）により経営している。売店の売り上げは1日約 10 ドル程度であり、収支があわない状況である。もともと、PNB が負担した予算のうち半分が建設費であり、残された資金のさらに半分が売り掛け販売に使われ回収できていない。弁護士を通しての回収作業を進めたいが、サインのない契約書が多いという問題がある。

組合は現在、損失を確認し再建のための活動をしている。利益が上がれば再度卸売りが開始できる。過去には日額 200 ドル程度の収益があったことから、利益があげられることは不可能でないものの、組合としての機能化は難しいといえる。この理由のひとつに、組合員の対立（村落（pueblo）居住者と海側（costa）居住者）とがあげられる。



セマコ協同組合



組合会計指導中の隊員

（2）プエブロ・ヌエボ

隊員は、基礎グループや伝統民芸グループ等いくつかのグループのうち、伝統工芸に関与するグループに対し、月に一度会合を開き、伝統工芸品（特にチャカラとよばれる手編み鞆）の販売に係る流通システムを指導。過去に売買契約の不履行があったことから、「契約書の締結」「ものの引き渡し」「販売」「支払い」「領収書」の流れを説明した。セミナー実施後、関係する先住民女性が率先してセミナーの内容説明をするなどの効果がみられた。

チャカラの販売については、チャカラを売るのではなく、売買契約の結方を教えることにより、人々が損をしないような知識を身につけることを目的として取り組んでいる。

（4）ビシーラ

ビシーラ村までは、チリキグランデから船でチリキ湾を1時間、さらにクリカモラ川を1時間のぼったところにある川沿いのノベ族の村であり、約800人が居住している。調査にあたっては、PNB が用意したのボートの調子が悪く、現地出発が朝8時40分。それから2時間か

けて湾をわたり、更に2時間かけて川をさか上り、現地に着いたのは午後1時だったため、当初予定していた水田の見学はできなかった。なお、行きのトラブルから、帰りの船は、組合長に依頼して出してもらった。木製の船であり、海では波にもまれたが、2時間半で帰着することができたものの、悪天候時だと安全上からはかなり問題があると思われる。

隊員：新井圭介隊員（10/2・稲作）

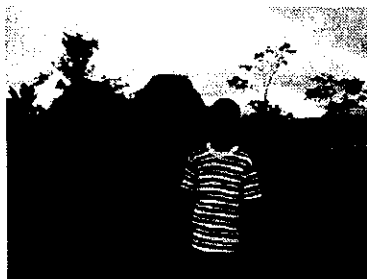
現地では、稲作（直播き）が行われていたことから、4人くらいの農民を中心に稲作の指導をしている。ピシーラ村の地形から川より低い位置に水田を作る必要があることから、田は泥状であり、雑草と稲がまざってしまっている。今後は、線をひき、整列して種を捲くよう指導し、それと同時に雑草を刈り草をなくすことで効率の良い作業インフラを作れるようにしたいとのことであった。ただし、現地の人は保守的であり、あまり新しいものを導入したくないという問題がある。隊員は「チョバ」というノベ名でよばれすっかり現地にとけ込んでいる様子であった。

隊員：松久大樹隊員（12/1・村落開発普及員）

8月に着任して4ヶ月間組合の運営指導に携わっている。10月に開発福祉支援事業にて精米機が到着したところ、精米機の管理にも取り組んでいる。組合員は約51名であり、集会の際は20名前後集まる。この集会で米の値段を決める予定。

開発福祉支援により供与された機材は活用されており、中でも精米機が頻繁に使われている。乾燥器は樅柄を燃やしその熱を利用して乾燥させるという、再利用方式をとっており、一度に48袋乾かすことができる。乾燥器の使用料は組合員が1キントールあたり、2.5ドルであり組合員以外は3ドルである。今回は200キントール収穫されたのでこの販売経路、販売方法を模索中である。ちなみに買い取り価格は1ポンドあたり12センターポである。

両隊員ともに開発センター内に居住しているが、トイレが悩みである。また、貯水タンクが最近ついたが、それまで水で苦労したことから、水のない任地への隊員派遣については検討してほしいとのことであった。



松久隊員。ピシーラの住居は高床式である。



収穫米を精米しているところ。写真は組合長。

(5) ソロイ

隊員：吉田進隊員（11/3・村落開発普及員）

・サミイ・ケベド協同組合（Coop. SAMY QUEVEDO）

ソロイ地区の住民は、2600人（2000年国勢調査）である。サミイ・ケベド協同組合は、1996年に設立され、組合員は77名、組合員の会費負担は\$9である。組合費については一部の組合員より徴集済みの状況である。

隊員は、開発福祉支援事業にて導入された、コーヒー皮むき機の活用にかかる調査、農業センター（Centro de Acopio）活性化のための自由市（feria libre）の開催、レストランの管理、伝統工芸品（チャカラ）の販売などをとおして組合の活性化を図ろうとしている。

コーヒーは、収穫が始まり、過去に隊員が調査し選定した13地区に開発福祉支援事業にてコーヒーの皮むき機と乾燥器を導入した。現在はコーヒーの収穫中のため、機材を用いコーヒーの生産作業にあっている。吉田隊員は13村落を巡回し、機材の利用実態調査をおこなっている。組合は住民からコーヒー豆を買い取り（1缶（lata）=10\$）それをサンタ・フェの農業組合に販売する予定。また、コーヒー作業の行程をビデオにて撮影中である。なお、皮むき機の使用料は組合員15センターボ（c）/lata 組合員以外10c/lataであり、乾燥器の使用料は組合員10c/lata 組合員以外25c/lataである。

自由市については、前任隊員の活動を引き継ぎ月に1度実施している。しかしながら、市場まで距離的に遠いというアクセスの問題から、参加する生産者が2～3名、客は5～10名いるのみである。主な流通品は、野菜（トマト、キャベツ、バナナなど）と伝統工芸品。あまり人が集まらないことからハリウッド映画のビデオを上映し、人を集め作業にあっている。

レストランについては、経営権をめぐる「住宅委員会」（comite de vivienda）と組合の間でトラブルがあり、レストランの使用料が支払われていない、当初から経営権が12月までだった等の事情により1月からは経営権が組合に移る予定である。但し、これに対し、住宅委員会は依然として不満を訴えている。レストランの客は1日5～15名。朝食は60C 昼食/夕食は1\$であり、収益があがっている様子。センター内には、レストランの他、宿泊施設（1泊2ドル）、売店、肉屋等いずれも店舗スペースはあるも、店舗開店の見通しはあまりないとのこと。

伝統工芸品（チャカラ）については、対象としている生産者グループが2グループある。ひとつのグループは徒歩2時間の地域に35名。そしてもうひとつグループについては、徒歩6時間程のところに15名おり、これら生産者が作るチャカラを週末に隊員がダビッド市で路上販売している。

コーヒーの巡回指導に際して、同行する組合幹部から過去3ヶ月間続けて突然直前に巡回中止の申し入れがあったが、これは、組合から旅費が支払われていないことによる。隊員が同組

合員の巡回に係る費用を自ら負担する旨を申し入れたところ同行したことからも、金銭的問題が絡んでいることが考えられるので、今後の検討課題と考えられる。吉田隊員は、今後、コーヒーの流通を軌道にのせる、伝統工芸品（チャカラ）の生産販売システムを開発する（H13 春募集にて「家政」の要請あり）等の活動を実施したいとのことであった。



組合員との協議



ソロイ地区の住居

（6）アト・チャミ

隊員：中田篤志隊員（10/3・野菜）

隊員は、ノベ語が上手く、ノベの歴史にも詳しい。現在は野菜グループの指導を中心に活動を実施している。当初5グループへの指導を実施する予定であったが、視察した結果、現在は2グループ(Boca del Monte, Arrieta)に加え新たに3グループ(Cabezuela, de Quebradada, Cana)の野菜栽培指導を中心に行っている。それぞれのグループの構成員は12～3人であり、トマト、ネギ、キャベツ、インゲン、セロリ、パイナップル、チンゲン菜、からし菜の栽培指導を、コーヒーの残さ渣渣やミミズを利用した有機肥料作りを中心におこなっている。住居は厚生省が提供している。



中田隊員が指導した「ぼかし」。



中田隊員が指導している農民グループ。

なお、新規要請「農業協同組合」を併せて確認した。同要請は、組合の活性化を図ることを目的としており、時に、農産物の市場化にとりこんで欲しいとのことであり、農業での実務経験3年以上。「保健婦」要請についても同様のサイトで実施される予定である。

(7) アト・コロトゥ

隊員：高井東子隊員（11/3・村落開発普及員）

サン・フェリックスに戻り、更に山を登ること30分。アト・コロトゥは人口1600人の村であり、高井隊員は、組合の活性化と生活向上委員会の活性化のために活動をしている。同地区の協同組合は収益もあげており、活動状況もよいところ、隊員は、新たに設置された生活向上委員会の活性化を中心に活動を行いたいとのことであった。

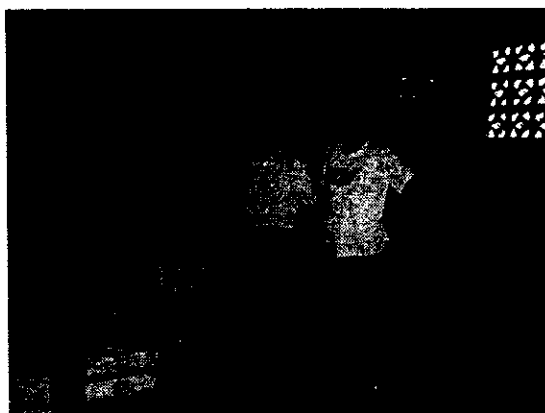
なお、アト・コロトゥ村は、開発福祉支援事業実施サイトではないが、ノベの人々の生活向上のためのプロジェクトを実施していることから、今後はグループ派遣隊員として取り扱う必要がある。

・スリビレ・ワイレ協同組合（Coop.Srivire Waire）

スリビレ・ワイレ協同組合の組合員は員約40名。組合費は年間12\$であり、役員については、既に納入済みである。組合業務の業務は、主に小売り・卸売りであり、これが収益の15%あげている。また、乗り合いタクシーも行っているが、組合内部の問題から、関わっていない。隊員は月に一度の棚卸しにかかるアドバイスを実施している。

・生活向上委員会(Comite de Mejoramiento de la vida)

隊員が積極的に関わっているのが「生活向上委員会」である。同委員会は5人の委員からなっており、水道、トイレ設置のためのプロジェクトを立案しているところであり、それをもとに資金を獲得する予定である。このほか、自由市の開催（日本映画上映会を含む）、パンの講習会、家計簿講座、文通などを企画している。



高井隊員。組合倉庫にて。

(8) セロ・イグレスias

開発福祉支援事業にて支援された養鶏プロジェクトのフォローをしている。

養鶏プロジェクトの関与者は24名からなるグループ。約100羽の鶏を6週間のサイクルで飼育、加工、販売している。収益は\$200~300、うち飼料を含め飼育にかかるコストは\$160のため、収益は約\$100前後である。グループ内でかかるコストを分配する予定であるが、養鶏に熱心な人は、わずか10名程度のことから、仕事台帳に基づき分配する予定である。今後は、構成グループの再編成を考えている。中田隊員は野菜隊員ということもあり、積極的に養鶏グループには関与していない状況である。今後、隊員によるフォローは継続して実施されないものの、「農業協同組合」にて要請中の後任隊員が適宜フォローする。

(9) ブエノス・アイレス

隊員： 五味剛隊員 (11/3・村落開発普及員)

開発福祉支援事業の1999年度予算にて、水田プロジェクトを5つの集落 (Chumico, La Vigia, Tierra Blanca, Naranjal, Mojarro) にて実施している。また、今年度予算にて新たに (Cabuya, Tigre Arriba, San Antonio, Villagua Centro, Villagua2) にて水田プロジェクトを実施予定である。傾斜を利用した棚田を作っているが、田の設計などについては、上下水道設計隊員の支援を行い、高度差、配水設備を考慮して実施した。水田プロジェクトの実施にあたっては、農民の意識向上を重視している。水田プロジェクトが積極的に行われていることから、今後は作付けの管理などの営農問題に取り組むと同時に、水田を中心としつつ周囲に圃場、豚・鶏を飼育するなど農場づくりの方法で取り組む予定。巡回地は遠い村だと徒歩8時間かかり、毎日巡回を行うため、体力的な限界を感じることもある。巡回の際、馬を使う場合が多いが、馬の体調が悪いことから巡回にも支障を感じる旨配属先に要求している。

今回視察したチュミコ (Chumico) 地区の水田の棚田は8面。隊員からは近いため頻繁にフォローしてい無い状況とのコメントがあったが、稲の栽培は着実に拡大しており、収穫は役100kgである。開発福祉支援事業にて支援された農業センターは活用されておらず、レストランの経営も、隊員はフォローしていない状況。



五味隊員が指導しているチュミコ地区の水田。

第4章 現地調査内容（その他）

4-1 関連機関との協議

（1）JICA 事務所

パナマ事務所は1988年に設立された。現在は①貧富及び地域間格差の是正②経済基盤強化③環境保全④運河及び周辺への支援に取り組んでいる。シニア・ボランティアの派遣が開始し、現在9名のシニア・ボランティアが活動中である。研修員の派遣は平成12年度に51名を予定しており、プロジェクト方式技術協力をはじめとする様々な対パナマ支援を実施中である。

コロンビアの麻薬撲滅キャンペーン（プラン・コロンビア）が2001年1月に開始するが、パナマ国側の国境の警備が弱いため、国境近辺に対する支援については、今後の事情を観察する必要がある。隊員は基本的に地方派遣を中心に行っているが、隊員派遣によりどこまで生活が向上しているのか考える必要がある。

（2）日本大使館表敬訪問

団長より、今般の視察の目的は開発福祉支援事業にかかる隊員派遣のとりまとめを行う旨の説明があった。その後大使より、現モスコソ政権は地域開発を中心に取り組んでおり、「持続可能な農場計画」（Granja Sostenible）に取り組んでいる。これは、農民をグループ化し、そのグループをもとに生活向上を図るものであり、5年間で3000の農場が作られる予定である。この立ち上げには、栄養協会（Patrimonio Nutricional）が取り組んでおり、草の根無償資金協力による支援の可能性も考えている段階である旨説明があり、係る分野における隊員派遣についても積極的に考えてほしい旨の話であったため、「稲作」「土壌肥料」の要請があげられており、春募集にて対応する予定であるが、その派遣状況をみたくうで検討したい旨回答した。

（3）経済財務省（MEF）表敬訪問

面談者：Carmen Ramos（Sub-Directora）

現在協力隊員は、貧困対策と生活向上にかかる分野を重視した隊員活動を展開しており、今後もこの分野を中心に組みたい旨説明した。協力隊員の努力については高く評価すると同時に、抱えている問題（厚生省の家賃不支払い等）については、今後も関係省庁への理解を深めるよう積極的に取り組む予定とのことであり、各政府機関との協議を開始したところである。日本政府の取り組みには大変感謝しており、特にエビの白天病対策における支援効果は高く評価しているとのことであった。なお、今般の調査結果を知りたいとの要望があったことから、報告するとともに、報告文書を提出した（別添3）。

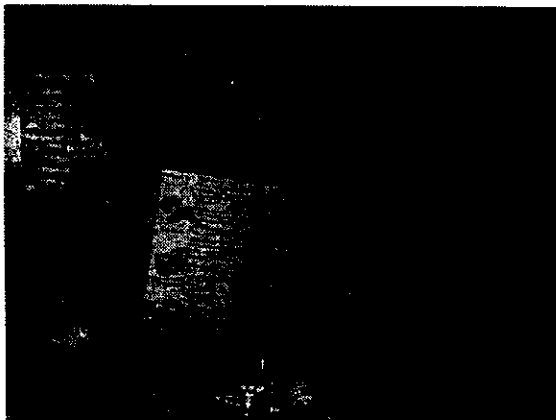
4.2 隊員活動視察

(1) ポカス・デル・トロ

隊員：中森香苗隊員（11/3・栄養士）厚生省ポカス・デル・トロ病院

任地は首都から1時間のコスタ・リカ国境に近い島である。人口は約2000人。配属先は、病床30床の病院であるが、患者はあまりいない。仕事は、病棟訪問、給食管理、食数管理、献立作り等であるが、患者が少ないことやCPの栄養士が二人おり（うち1名は政治的事情による？）、栄養についての知識もあり、経験も長いため、教えることはあまりない。現在は、ポスターなどの掲示物を通しての栄養指導を実施している。また、病院や学校で菜園を作り、栄養指導に取り組む予定。また、近くの島を巡回しての栄養指導の実施にも今後はとりくんでいきたいとのことであった。

住居：病院より徒歩約10分のところに位置する家にホームステイしている。電化製品が全て揃った家であり、代々隊員が住んでいるため、隊員の扱いにもなれている。快適に暮らしているとのことであった。



中森隊員とカウンターパート

隊員：北沢拓隊員（11/3・漁業生産）海運庁海洋資源漁法課

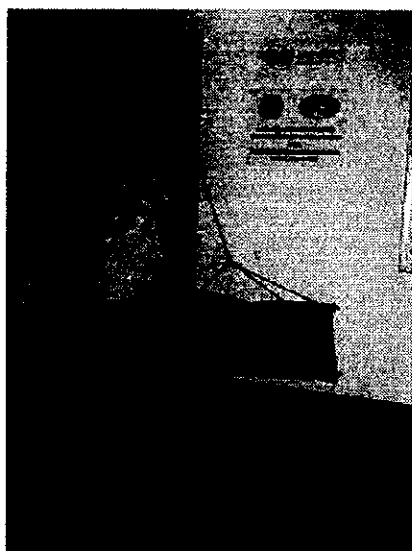
当初派遣予定であった任地にハンターウイルスが発生したため任地変更したものの、変更先の配属先の問題のため再度任地変更をすることになり、現在の任地に赴任するまで約3ヶ月経たが、その間に石原シニア・ボランティアの指導のもと漁具作成に関する知識を得、積極的な活動展開に向けて意気込んでいた。

現在は、草の根無償で地元漁業組合に対して支援のあったボートを利用して遠洋漁業に取り組むための準備を行っている段階である。また、水中眼鏡や網などを、入手可能な材料を利用して試作している段階であり、今後の活動に向けての意気込みを感じる。

なお、技術補完研修を千葉勝山で実施したが、冬の海のため、危ないからと船にのせてもら

えなかったのが残念であった。やはり船の上での経験を積む必要があると考えるとのコメントがあった。

住居： 教会の敷地内にある家にホームステイ。台所を借り自炊している。安全面でも問題がなく、快適に生活している様子である。



作成した網を手にする北沢隊員

・ Cooperativa Almirante (アルミランテ漁業組合) 視察

組合員は約20名。組合員全員が漁師であり、小学校教諭が組合の調整をしている。草の根無償資金によりグラスファイバー製の船製作にかかる資金を獲得し、この資金をもとに、船10艘を製作した。同組合はこの船を利用し漁業量増加を狙うと同時に船を賃貸して使用量を取り、この使用料を使用し将来的には組合員各人が所有できる船を買う予定であり、現在は船の引き渡し式の実施を待っている段階とのことである。非常に積極的な活動を展開している組合であり、北沢隊員も今後同組合についても併せてフォローする予定。

(2) チャンギノーラ

隊員：坂本憲一隊員 (11/1・野菜) 厚生省チャンギノーラ支局

昨年2月までは MINSA 職員である CP に対し、技術移転を目的にともに仕事をしていた。しかしながら、CP は農業技士のため、人前で作業はあまりしない。そこで CP と意見があわずに、活動方針を転換。現在は、村々を訪問し、女性グループに対し野菜栽培指導を行っている。対象となる女性グループは5名からなるが、畑の管理には積極的に取り組んでおり、なす、セロリ、キャベツ、大豆などの野菜などきちんと栽培されている状況である。また、学校菜園作

りも行ったが、任国外研旅行の、誰からの手入れもされなかったところ、野菜がだめになってしまった。学校菜園は、学校が休みの間は手入れが期待できないため、新学期に併せて行いたい。

なお、すでに CP に対しては技術を移転しているところ、同 CP の今後の活用方法については事務所からもアドバイスが必要な旨事務所側にもコメントした。



女性グループと取組んでいる菜園

(3) チリキ・グランデ

隊員：山崎富善隊員（11/3・看護師） 厚生省チリキグランデ診療所

面談者： Dra. Kethya de Gracia

Zanaida e Tunon（カウンターパート）

基本的に隊員はチリキグランデ診療所に配属であるが、チリキグランデ診療所が天井の改修工事のため、現在はランバラ診療所で勤務中である。ポカス・デル・トロには、診療所が4箇所あり（Chiriqui Grande, Miramar, Lambara, Kankintu）、診療所には、医師1名、看護婦2名、看護婦助手2名が配置されている。隊員は、検診や注射など、看護助手の仕事をしているが、今後は、看護婦が中心となって行っている、母子保健にもとりくみたいと考えている。

職場での勤務態度もよく、皆に好かれているが、唯一の問題は、言葉がうまく話せないこと、とのコメントがあったことから、配属先には、少しずつ語学の習得に心掛けている段階との説明をした。

隊員：浜本尚隊員（11/3・栄養士）厚生省チリキグランデ診療所

ビシーラ村への調査を経て、同隊員と面談する時間がもてたため、活動状況について確認した。仕事上、意志疎通が上手くいかないことがあった（地方巡回指導実施の際に同行しても良いとの話が直前に取り消しになってしまう等）。また、健康面でも問題がみられるとのことであった。隊員には、配属先の人々も気にしている状況を良く説明し、まず、職場にとけ込む努力をすること、そこから活動を始めるよう強く指導した。

（4）サンティアゴ

・文部省ウラカ高等学校

ウラカ高等学校は日本の中等・高等学校に相当する。生徒数は約2800人。同校に対しては、3代継続して隊員派遣（物理）を行っており、前隊員のカウンターパートはカウンターパート研修にて訪日した経験がある。協力隊員による全国レベルの物理セミナーは、パナマ国物理教員の必須セミナーとなったため、殆どの教員が受講している。

校長先生より、隊員派遣について感謝する旨のコメントあり。隊員の活動状況を確認したところ、隊員の活動状況を高く評価している旨、また、今後は校内の教員へのセミナーの実施（物理・数学）、そして全国レベルでのセミナーの実施案などについて、隊員の提案への賛同を得た。

隊員：本間学隊員（11/3・理科教師）

隊員が担当している生徒は5年生で、理系・文系がいるが、隊員は、理系の物理コースを担当しており、先生及び生徒に対する物理の指導を行う予定である。現在は、主に実験授業を担当している。CPの専門が化学のため、過去にあまり実験を手掛けた経験がないという問題がある。このため、予め実験要領を決め、実験前日に確認をしている。授業の導入があまりない等の問題があるが、そういうことを話し合うための時間があまりない。今後は実験器具の管理に掛る指導をする。

前任隊員のカウンターパートだった教員を含め再度物理セミナーを実施する予定。2月をめぐりに校内でのセミナーを、また、来年の夏休みには、全国レベルでセミナーを実施できればよいと考えている。

また、前任隊員は、教員に対する指導要領を作ったことから、本間隊員については、生徒に対する教科書の作成に対する協力要請も越されており、今後これについても、可能な範囲で対応する予定。

隊員：中條康雄隊員（12/1・数学教師）

同じくウラカ高等学校で数学を担当。コンピューターを用いた数学の授業の実施について教

員に対して指導することが求められている。パナマの教員はそれなりに専門性があり、準備をしているものの、どちらかというと教科書を詰め込む方式であり、生徒側は意味も分からず板書するだけのようと思われる。また、授業についても導入部分が欠ける等の問題がある。2月頃にコンピューターを用いた指導方法についてのセミナーを校内にて実施する。また、来学期は週1回～2回のペースで、先生に対するセミナーを実施する予定。

(5) 農業部会モデル圃場視察（ナランハル）

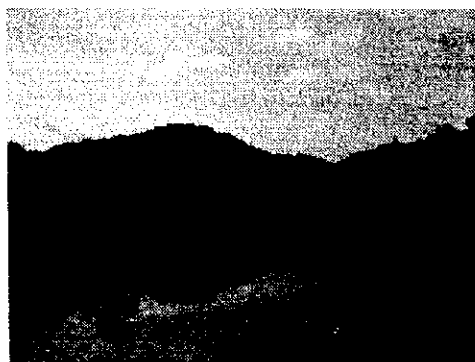
9人の農民をベース・グループとした養鶏プロジェクト及び農業圃場の実施。

養鶏プロジェクトは宮本隊員（6/3・PO）が開始したアヒルプロジェクトを、作本理恵隊員（9/2・村落開発普及員）が発展させたものであり、アヒルの飼育より簡単な養鶏へと変更したものである。200羽の鶏を飼育しており、そのうち40羽を解体、販売した状況である。売れ行きは良かったが、飼料箱の形状の問題から餌にコストが掛りすぎる等の問題がみられたことから、最終的な利潤率はあまりなかった。次回からは見直しを図る予定。

農業圃場については、水田、トウモロコシ、オクラ、インゲン、キュウリ、トマト等を栽培、また水田には魚を放している。畝の作り方、わらを引いての作物栽培などに農民が熱心にとり組み始めており、様々な分野の農業隊員が3ヶ月に一度集まり、実習指導及びその他様々な講座の実施をしており、これらの投入の結果かかなりの効果がみられる。

モデル圃場については、今後は育苗ハウス、堆肥小屋、水道埋設を中心に取り組む予定である。また、このほか、1時間程離れた小学校にて学校菜園を、実施している。キュウリがバケツ一杯とれる等収穫があったことから、農民が積極的に取り組んでいる状況である。今後も継続して取り組みたい。

活動上の問題は、交通手段が限られることにある。これについて、カウンターパートに交通費の改善を要求したところ、引き続き、上位省庁に話を取次いでいくとのコメントであった。一方、カウンターパートから、隊員に関し、無許可にて任地を離れないよう要請があった。隊員に確認したところ、今後はきちんと対応する旨の回答であった。



モデル圃場の水田

隊員：片田典子隊員（11/3・村落開発普及員）

虫刺されによるアレルギー症状から二度手術しての治療を行わなければならないなどの問題はあったものの、モデル圃場の整備にかかる仕事に加え、女性グループへの指導を中心に生活向上のための様々な活動を実施している。女性グループへの指導については、標準体重以下の子供を抱える母親を中心に、野菜栽培を指導し、野菜による衛生向上を考えるほか、古着を売ることにより得た資金をもとに、洋裁にて畑仕事に持ちいることができるズボンを作る予定。このほか、パン教室、きれいなトイレ作り等、アイデアはつきない。

隊員：吉川夏樹隊員（12/1・野菜）

養鶏、モデル圃場の整備を中心に活動を展開。11月は養鶏に力を入れた。また、稲作については、11月の収穫にて約250キロの米の収穫があったことから、会員の作業出席率をもとに（ノートに記入している）今後は、収益を分配する予定。



吉川夏樹隊員

（6）ラ・ジェグアダ

隊員：真柄泰隊員（10/3・木工）環境庁ベラグアス地方支局ジェグアダ支所

1960年代にジェグアダ湖のほとりに水力発電が作られ、その水源管理のために植林が行われた。配属先は、植林に伴い営林の必要性から設置された事務所であり、事務所員は約15名であり、森林警備や森林火災対策を主な業務とする。直接関与している森林組合については、

営林作業の過程で、間伐の関係から伐採した木材加工のために作られた組合であり、組合員は20名登録されている。しかしながら、組合の負債は大きく、今後の状況が懸念される。隊員の要請は、木工所の家具づくりであったが、メンテナンスが悪く機能していない、木工具が全く無いなどの問題から木工所の建て直しを目的とするルネッサンス（renacimiento）計画を作った。もともと現職の技術教師であり、機械の知識があったことが幸いした。また、同時に村の子供に対し、小物づくりの指導を行った。組合は家具より構造のやさしい物の発注を取り付けてくる。また、家具を作ったとしても、組合い所有の車両が故障中のため、商品を卸す手立てがないのが現状である。

今年の4月に木工所の修理がほぼ完結したことから、今後は、ナランハル市近郊にあるアウト・ガルモ（Auto Galumo）に草の根無償資金協力により機材を供与された木工所があるが、機材が活用されていないことから、そこにおける指導に取り組む予定である。

なお、現職の教諭であるが、要請内容の性質から活動を広げることができずに残念と感じた旨のコメントがあった。また、前任が後任を要請しなかったにも関わらず、要請が出されたことには、何らかの政治的事情があったのか等の疑問を依然として抱きつづけているとのコメントがあったことから、本件については追跡調査すると同時に、反省事項として受け止め、今後の検討課題としたい旨回答した。



隊員住居に設けられた日本文化・木材紹介冊（異なる木材から作られている）

（7）ポルト・ベロ

隊員：原由希子隊員（11/2・栄養士）厚生省ポルト・ベロ診療所

マンパワー的存在として栄養問題を抱える人の指導をしている。また、小学生を対象とした健康プロジェクト（Proyecto Salud）に参加している。これは、医師と看護婦、栄養士から構成されるプロジェクトで、小学生の栄養状況の把握を目的としている。ここで行われた調査をもとに食生活調査を行ったところ、ポルト・ベロ県ではあまり栄養失調時の問題がないことが

分かった。診療所を訪れる患者のうち、栄養指導を必要とするのは、1日2人くらいであり、肥満、高血圧、糖尿病がほとんどである。現在、肥満の人を対象とした運動指導を二ヶ月くらいに渡り実施している。今後は、他の医師とともに、巡回栄養指導の実施を予定している。これについては、食材は病院のものを使い、また、交通費については救急車を利用することで合意している。近所に社会保健組合(CSS)の病院ができたため、患者が減っていることもあり、今後は、地方巡回に力を入れたいとの配属先の医師のコメントがあった。

(8) チリブレ

・濱田成功隊員 (11/2・家畜飼育) ANCON

配属先はパナマにおける最大の環境 NGO であり、農業技術の普及のためのモデル農業事業として、鳥、豚、イグアナ、conejo pintado 等を飼育している。「家畜飼育」という職種については、繁殖させるのが仕事と考えていたため、考えていた仕事内容とは異なった。配属先は運河流域保全のための植林を中心事業としているため、モデル農業事業の手伝いをしているのは森林管理人であるが、忙しい時期は手伝ってくれないという問題がある。将来的に活動を広げていく予定、自身の後任に加え、継続要請の「司書」、また、配属先本部に対する「プログラム・オフィサー」の派遣要請が配属先から出されている。後任に対しては、経験よりも、インターネット等とおし、様々な知識を得てほしいと考えている。

(9) 特別養護庁農牧教育センター

同センターは14歳から20歳までの知的障害児、聴覚障害児等を対象とした職業訓練（農業）指導を実施している機関であり、29名の生徒がいる。学校は72hrの土地を有しており、隊員はこの土地を利用し野菜栽培、家畜飼育、植林に取り組んでいる。現在3名の隊員が時期を同じくして活動中である。生徒は29名を2グループに分け、1週間サイクルで仕事をさせることになっている。

問題となっているのはカウンターパートに技士が1名しかいないこと、また、農業に関する授業はあまり行われておらず、授業が行われたうえで、農作業をした方が効果があがるとのコメントがあったことから、授業計画を含む活動計画を作成し、それをもって今後の方針について検討する方が良い旨コメントした。

住居：3隊員とも住居はセンターの中にある。佐藤隊員及び鈴木隊員の住居はかつてのオフィスを改造したものであり、窓の鉄格子などは問題がないが、鍵が壊れかけだったため、カウンターパートに事情を説明し交換してほしい旨依頼した。葛西隊員の住居は生徒の宿泊所の一角であったが問題はなかった。

・佐藤理映子隊員（11/3・家畜飼育）

隊員は、牛、豚、鶏の飼育を行っている。牛は32頭、豚20頭いる。牛の搾乳、飼育の他、ワクチンなども行っている。また、搾乳で得た牛乳にてチーズ作りも行っている。チーズ、卵などは、特別養護庁に持参し、販売している。生徒の質の問題が大きい。

・鈴木加寿子隊員（12/1・植林）

業務内容は果樹栽培中心である。配属先には、植林をしたいとの希望があるものの、それを実現できる様子はあまりない。現職参加であるにも関わらず、その技術があまり生かしていない状況である。

・葛西憲穂隊員（12/1・野菜）

有機栽培の普及のため、堆肥、ぼかし、輪作を実施の予定。栽培している野菜は、チレ、きゅうり、ピーマン、トウモロコシ、キャッサバ、里芋、トマト（うまくいかない）等。野菜栽培については、以前から行われており、素地はあるところ、今後は、堆肥作りを中心に有機肥料を取り入れつつ、病虫害を減らす方向で対応したい。

（10）内務司法省国家警察

・勇上将利隊員（11/1・SE）

・Jorge Luis Garcia（技士、CP）

犯罪者検索のためのデータを遠隔管理できるよう、データベース Oracle の構築管理に取り組んでいる。データベースのバージョンアップにあわせて、サーバーを通し、統合データベースを作成している。その関係で、Oracle の開発に関する指導及び Developer 2000 を使った開発に関する指導を行っている。スポット的な依頼に対する管理指導の他、情報管理部に勤務する10名くらいの人員を対象に Oracle に関する研修を実施している。配属先で勤務しているプログラマー達は、パソコンに関するひととおりの知識があり、修理も可能である。現在日本にて研修中のプログラマーについては、日本の中級 SE くらいの能力はある。パナマ人 SE はレベル的には問題ないが、エンドユーザーを意識してのプログラミングを殆ど行うということがないので、これらの意識改革にも取り組みたいと考えているが、難しい課題である。後任については、12秋募集で要請が出されており、資格条件などについて確認した。住居は CP 宅であるが、なんの問題も無いとのことである。

(11) アイリガンディ島

- ・大西志真子隊員（11/3・理学療法士）厚生省アイリガンディ病院
- ・宇井恭子隊員（12/1・看護婦）
- ・渡邊美奈子隊員（12/1・看護婦）

サン・ブラス諸島までは、飛行機タクシー（Acro Taxi）と呼ばれる小型セスナでパナマ市内から約30分。そこから、各島まで小型ボートで渡り。調査団が訪れたときは、アイリガンディ島で一週間に渡る講習会が実施されていたために渡部隊員もアイリガンディ島にいた。丁度、栄養改善のための料理講習会をクナ人女性宅で実施しているところで、スキムミルクとバナナをまぜ、それを揚げたお菓子の作り方を指導しており、多くの子供が集まっていた。隊員のおかげで、野菜を食事に取り入れようとし始めている、との村人のコメントもあり、活動効果が見え始めているといえる。

3隊員とも病院内で勤務中であるが、医療行為を行なえないため、院内での仕事についてはあまり積極的に行えないが、巡回しての栄養指導に活動の意義を見い出しつつある段階の様子であった。

住居：宇井隊員は厚生省職員の宿泊施設内に一室があり、問題ない。大西隊員は、厚生省の看護婦と同居であるが、カギがあまりしっかりしていない、鉄格子がない等の問題があったので、それについては、追って検討する必要がある旨伝えた。

なお、コロンビア・ゲリラの関係により任地変更の可能性があると伝えたが、活動が軌道にのりつつあること、また、島自体の様子が平穏であるため、不穏な要因は感じないこともあり非常に残念とのコメントであった



栄養指導中の隊員

(12) 厚生省チェボ支部

国塚育子隊員 (11/2・上下水道設計)

水道布設のための測量を実施している。当初住民の反応が良くなく戸惑ったが、前回の集会では70名が集まり、活動が軌道にのりそうである。かつて厚生省が布設し、その後の管理が悪かったため現在は使われていない水道があるが、その貯水槽の掃除をした際も住民が協力してくれた。今後は水道布設の準備を住民主導ですすめると同時に、もう一箇所での水道の布設も考えている。この地区には、エンペラ チョコエ等の先住民が居住しているが、まとまって居住している感がある。

このほか、リサイクルを中心にゴミに関する活動も実施中。厚生省でデング熱を防ぐためのごみ処理指導をしている他、小学校にリサイクルボックスの設置などの活動をしたい。厚生省支部により活動差があるが、チェボ支部は比較的熱心である。

住居：厚生省の裏の家に一人暮らし。3度家を引っ越しているが、現在の家は比較的良いが近所に泥棒がいる等の噂がある。

別 添

1 グループ派遣

グループ派遣

- 1 プロジェクト名： 西部先住民地区モデル村開発支援
- 2 協力期間 : 1998年12月から
- 3 プロジェクトサイト： 西部先住民自治区内 ビシーラ村、プエプロ・ヌエゴ村、ソロイ村、
セロ・イグレシヤス村、プエノス・アイレス村
- 4 相手国実施機関 : プロジェクト・ノベ・ブグレ
- 5 要請背景

プロジェクト・ノベ・ブグレ (PNB) は大統領府社会緊急投資基金(FES)と国際農業開発基金(IFAD)との協定により1993年に設立された非営利団体(NPO)であり、先住民であるノベ・ブグレ族の生活レベル向上のための、住民の組織化、生産性向上のための、支援、技術指導を行っている。

JICA は、1998年に、開発福祉支援事業のスキームにより、ノベ・ブグレ族自治区内の協同組合育成を目標に、上記5ヶ村においてモデル事業を実施している。地区協同組合の育成、及び先住民の生活向上を従来より効率的、効果的、広範囲で行うための隊員の連携が求められている。

- 6 プロジェクトの目的：
協同組合育成事業を先住民の意見を尊重しつつ実施する。
 - ・ 先住民の組合の育成
 - ・ 農作物や民芸品等の生産物の公平価格による販売
 - ・ 加工品により生産物に付加価値をつけ収益増加を図る

- 7 協力活動内容
 - ・ 先住民の組合運営
 - ・ 生産物の販売、加工、流通
 - ・ 農産物、民芸品等の生産。

- 8 活動の現状
開発福祉支援事業により、平成9年度はソロイ村の共同市場の拡充、また、平成10年度は他の4ヶ村に対し、組合建物などの建設に対する支援が行われた。平成11年度では7地域、12の開発福祉支援事業が展開されている。

- 9 問題点と今後の課題
 - ・ 管轄地域が広範であり、モデル村落が散在しているため、PNB 本部とモデル村落との間に意見の相違が生じがちである。また、生産物の質や組合の組織化の度合いが村により異なる。
 - ・ 開発福祉支援事業終了後の持続的発展。

2 グループ派遣改訂案

グループ派遣改訂案

- 1 プロジェクト名： ノベ・ブグレ生活向上支援（仮称）
- 2 協力期間： （評価するために期間の設定は必要）
- 3 プロジェクトサイト： ノベ・ブグレ自治区
- 4 相手国実施機関： FIS
- 5 要請背景
- 6 プロジェクトの目的： 先住民の生活向上にかかる支援を実施する。
- 7 協力活動内容

ブエノス・アイレス：水田プロジェクト

- ①的確な栽培管理を通し、稲作の基礎を拾得しつつ自給自足。
- ②稲作の増産により、域内流通をとおり、現金収入の獲得。

アト・コロトゥ：生活改善プロジェクト生活改善委員会をとおり、様々な生活改善プロジェクトを実施。

アト・チャミ：生活改善プロジェクト

農産物の増産、流通システムの見直しを図り、協同組合を活性化させる。

ソロイ：コーヒー・プロジェクト

- ①コーヒーの流通システム改善による生活向上。
- ②協同組合の活性化
- ③伝統手工芸（チャカラ）の販売を通じた生活向上。

9 ビシーラ：稲作プロジェクト

Los Problemas de las Instituciones

04/12/2000

M.E.	El Pago de hospedaje demora mucho tiempo en efectuarse
NUTRE HOGAR	No tiene contraparte <i>Confirmar con Ana María sobre formulación de reemplazo de Naoko</i>
MINSAL	No tiene presupuesto de hospedaje
IPHE	OK
UNACHI	OK
F.I.S.	PNB va a terminar en diciembre de 2001, no sabemos sus planes posteriores con respecto a los voluntarios. (Hay que confirmar la responsabilidad de FIS)
INAFORP	No hay trabajo coordinado entre oficina sede y oficinas regionales. Todavía no han contratado el contraparte para reemplazo de Sr. Minamoto. *
ANAM	OK (En caso de necesitarse el pago de hospedaje, hay posibilidad de poder cumplirlo)
P.N.	El Jefe de contraparte de voluntario no entiende sistema de JOCV
M.P.	No tienen un plan de trabajo que justifique la solicitud del voluntario
ANCON	No habían puesto mucho énfasis en la cría de animales, en la cual el voluntario está trabajando. (Tuvimos una reunión con el personal encargado y la situación se ha mejorado.)
M.J.	El pago de hospedaje demora mucho tiempo en efectuarse.
MINEJUVE	No tiene presupuesto para apoyar la actividad de JOCV → <i>sea transporte</i>
A.M.P.	No tiene contraparte

IPACOOOP	OK
MIDA	No tiene presupuesto de hospedaje



Agencia de Cooperación
Internacional del Japón en Panamá
APARTADO 6-7799, EL DORADO 6-A
PANAMA, REPUBLICA DE PANAMA
TEL.: 264-9669, FAX: (507) 264-9958

Panamá, 14 de diciembre del 2000

Ingeniero
Alfredo Broce
Jefe de Cooperación Técnica Internacional
Ministerio de Economía y Finanzas

Muy Respetado Ing. Broce:

Reciba nuestro cordial saludo, deseándole una Feliz Navidad y un venturoso año nuevo.

Al finalizar nuestra misión en Panamá, deseamos presentarle nuestro informe final sobre nuestra visita a las diferentes áreas.

Observamos que los jóvenes voluntarios trabajan en conjunto con las comunidades para fortalecer actividades de cooperación de buena calidad, aunque permanecen en una situación de vida muy difícil. Por lo general, la evaluación de las instituciones en las que los voluntarios están asignados es de alto nivel, por lo cual esperamos que haya una cooperación más eficiente a través del envío continuo de voluntarios a las áreas más importantes.

EL PLAN DE EJECUCION DE ENVIO DE VOLUNTARIOS

Las áreas prioritarias para la asistencia de JICA PANAMA son las siguientes:

1. Disminución de las diferencias extremas existentes entre las clases sociales y entre las regiones.
2. Fortalecimiento de la Base Económica y Activación Económica.
3. Conservación Ambiental.
4. Apoyo al Canal.

Entre estas áreas, la "Disminución de las diferencias extremas existentes entre las clases sociales y entre las regiones" es la tarea que cuenta a nivel internacional con la prioridad más alta y necesita el apoyo a nivel comunitario o de base. En Panamá, el esfuerzo de los jóvenes voluntarios en el área, ha mostrado una alta eficiencia de apoyo, por lo cual confirmamos que nos esforzaremos en el apoyo a dicha área con la prioridad más alta como hasta ahora, a través del Programa de JOCV.

Por otro lado, las actividades de cooperación realizadas en la Comarca Ngöbe Buglé, las cuales son asistencias para mejorar el nivel de vida en una sociedad y cultura distinta de la sociedad en general de Panamá, son de mucha importancia, ya que significa el apoyo a la gente que sufre la doble pobreza, por la falta de recursos y por vivir en lugares apartados, que es la realidad de los indígenas que viven en las montañas. Por lo cual, sería recomendable que



Agencia de Cooperación
Internacional del Japón en Panamá
APARTADO 6-7799, EL DORADO 6-A
PANAMA, REPUBLICA DE PANAMA
TEL.: 264-9669. FAX: (507) 264-9958

dichas actividades sean consideradas como una de las metas prioritarias de la asistencia oficial para el desarrollo del gobierno japonés hacia Panamá. Dado que la forma de envío tipo grupo ha sido muy efectiva para este tipo de cooperación ya que de esta manera los voluntarios se han integrado para llevar a cabo sus actividades, deseamos mantener esta forma de envío de aquí en adelante.

En el área de "Fortalecimiento de la Base Económica y Activación Económica", la cual tiene la segunda prioridad, hay necesidad de fortalecer las actividades de cooperación en la formación de los recursos humanos panameños, ampliando el envío de voluntarios a la educación primaria y al Primer Ciclo, aunque en realidad se cuenta con el bachillerato superior.

LAS AREAS PRIORITARIAS PARA JOCV EN PANAMA

(1) DISMINUCION DE LAS DIFERENCIAS EXTREMAS EXISTENTES ENTRE LAS CLASES SOCIALES Y ENTRE LAS REGIONES

- a. Mejorar el nivel de vida en la Comarca Ngöbe Buglé (envío del tipo de voluntarios en grupo)
- b. Crear una Granja Sostenible demostrativa en un área semi-montañosa (Grupo de Ingenieros agrónomos, Huerto Modelo de Naranjal)
- c. Fortalecer la PHC (Atención Primaria de Salud) en el Interior (envío de enfermeros(as), enfermeros(as) de salud pública, nutricionistas y fisioterapeutas).

(2) FORTALECIMIENTO DE LA BASE ECONOMICA Y ACTIVACION ECONOMICA

- a. Apoyar en el mejoramiento de la educación primaria y el Primer Ciclo.
- b. Fortalecer la Educación Ambiental

La Oficina de JICA aprovecha esta oportunidad para expresarle las muestras de nuestra más alta consideración y respeto.

Muy Atentamente,

Yoshitaka Misawa
Representante Residente
Oficina de JICA en Panamá

Mayumi Sakamoto
Segunda División de Asignación
en el Extranjero de JOCV
Oficina de JICA en Japón

開発福祉支援事業実施申請書

平成9年6月12日

国際協力事業団 総裁 殿

申請書 パナ事務所長

開発福祉支援事業（モル事業）の実施について通達 の規定に基づき下記のとおり申請します。

記

1、案件名：パナ先住民地区農業共同組合育成

2、申請理由：

(1) パナはラ米でブラジルについて貧富格差が激しく、極貧地域はパナの西部と東部の先住民自治区に位置する。高い乳児死亡率（約31/千人）、慢性栄養失調（35%～63%/地域により異なる）、低い就学率（約30%）、識字率（男性64%、女性47%）等に喘いでいる。

(2) 本申請の受け皿となるプロジェクト・パナグレ(PNB)は、パナ西部の先住民（パナグレ）の生活向上を目的として93年に設立された非営利団体で、スタッフの大半は意識的にパナグレ族の人々が雇用され、代表はパナグレの出身者である。彼らはモル・プロジェクトとして10の村を選出し、研修等をおし農産物の生産性向上、開発センター（集会所）の設置、住民の組織等を政府関係機関の協力を得ながら手掛けている。

JICAは協力隊事業をおし目下4名の隊員（プログラマー、稲作、食料作物、森林保全）を配置している。

(3) PNBの着実な活動により幾つかのモル村では伝統的な農産物を販売するに至ったが、多くの収入増には繋がっていない。これは販売ルートを持たない彼らは仲買人との不当な価格での取引に甘んじざるを得ないこと、籾殻の米を販売するといったように何ら付加価値を付けられないことによる。

(4) PNBは次の段階として現在形成されているグループを強化し、多機能を有する組合組織に育て上げ、正当な価格と付加価値の確保を目指している。これによる収入の増加は組織強化および生産性の向上にも寄与することが期待されている。

3 支出科目：開発福祉支援事業費

4、概算支出額：2,150万円

5、関連プロジェクト：

(1) 日本/青年海外協力隊員派遣

(2) ドイツ/アグロリストリー (GTZ)

- (3) 米國/環境保全 (平和部隊)
- (4) EU/住居改善 (検討中)

別添書類

- (1) 開発福祉支援事業実施計画書
- (2) 経費概算内訳書
- (3) その他

平成9年6月12日

開発福祉支援事業（モデル事業）実施計画書

- 1、 案件名：パナ先住民地区農業共同組合育成
- 2、 実施場所：パナ国パナル自治区
- 3、 実施時期および期間：平成10年1月から平成14年12月（5年間）
- 4、 契約相手先：パナル・プロジェクト（PNB；開発事業に携わる非営利団体）
- 5、 経費概算：別添内訳書
- 6、 現地モデル事業実施の必要性

（1）PNBは93年から農産物の生産性の向上を主な目的として活動を行ってきた、幾つかの村では村の外に多くの量を販売するようになっている。しかしながら、商業化指導まで手が回っておらず、不当な価格取引に応じる、或いは付加価値のないままに販売しており、収入の増加には必ずしも結びついていない。

（2）そこでPNBとしては次の段階として現在形成されている住民グループを強化し、生産物の正当な価格と付加価値の確保を図るため、共同出荷、搬入等を中心に計画している。最終的には、住民のニーズに沿ってその機能を発展させ、多機能を有する組合組織に育て上げ、その結果を当該地域の他のグループに普及したいとしている。

7、実施概要と期待される効果

（1）活動

ア、組織化・運営等の指導

イ、共同出荷と搬入の指導およびそのための施設等の整備

ウ、定期市開催の指導とそのための施設等の整備

エ、市場流通調査

オ、モデルプロジェクトの紹介と成果の普及

（2）インプット

ア、一般現地業務費

イ、普及活動費

ウ、セミナー開催費

エ、短期専門家派遣（農業共同組合育成）

（3）効果

グループ強化による収入の増加は一層の組織強化および生産性の向上に繋がります。PNBの所期の目標である生活改善に大きく寄与することが期待される。

8、契約予定相手先の概要

1、団体名：Proyecto Ngobe-Bugle (プロジェクト・ハブグレ：非営利団体)

2、住所：パナマ県サンティゴ市

3、設立年：1993年

4、目的：ハブグレ族（先住民族）の生活向上

5、スタッフ：55名（管理部門；13名、事業部門；42名）

5、年間予算（97年）：\$3,000,000

（1）管理費 22%、

（2）事業費 78%

ア、土木建設 8.8%

イ、貸し付け 21.2%（新規事業）

ウ、機材等調達 21.1%

エ、研修 16.7%

オ、技術指導 9.7%

（3）出資元：FIDA 68%、パナマ政府32%

添付書類

（1）開発福祉支援事業実施計画書付属書

（2）PDM

PC-090 6/9

開発福祉支援事業実施計画付属書 1

パナマ先住民地区農業共同組合育成

パナマ事務所

成果	活動	ターゲット	年度						実施団体の担務	投入
			1997	1998	1999	2000	2001	2002		
組合形成	講習会	モデル村の住民	→	→→					運営費 車輛の提供	短期専門家派遣 スタッフ等の雇用
共同出荷 搬入	講習会 施設、機材整備	同上	→	→→→	→→→→	→→→→→	→→→→→		運営費 車輛の提供	短期専門家派遣 スタッフ等の雇用 簡易施設の整備 機材等の設置
定期市の開催	講習会 施設整備	同上		→→→	→→→→	→→→→→	→→→→→		運営費 車輛の提供	短期専門家派遣 スタッフ等の雇用 簡易施設の整備
成果の普及	講習会 祝祭	自治区				→→→	→→→	→→→	運営費 車輛の提供	短期専門家派遣 スタッフ等の雇用

開発福祉支援事業実施計画書付属書 2

ハマ先住民地区農業共同組合育成

ハマ事務所

		97年	7月	10月	01月	備考
1	専門家派遣(農業組合育成)				→→→	
2	一般現地業務費				→→→→→→→	
3	ロカNGO				→→→→→→→	
	(1) 普及訓練・活動指導 (2) インハウス・コンサルト				→→→→→→→	
4	普及活動費				→→→→→→→	
5	旅費				→→→→→→→	
6	セミナー				→→→→→→→	

「パナマ先住民地区農業共同組合育成プロジェクト」PDM

プロジェクト概要	農業組合を育成・強化し、伝統生産物の商業化をとおし現金収入の増加を図り、もって住民の生活向上を図る		
上位目標	指標	指標データ入手手段	外部条件
住民の生活水準が向上する	パナマ大統領府基準の住環境レベルが最下位から向上する。	2000年国勢調査	国勢調査がきめ細かに実施される
プロジェクト目標			
1.生産物を公正な価格で販売する 2.加工を加え付加価値を付ける。	1.流通価格と取引価格の格差がない 2.取引価格があがる	農業組合記録 調査・アンケート	1.天候が激変せず農作物等に悪影響を与えない。 2.パナマのマクロ経済が不安定にならない
成果			
1.住民が組合を効果的に運営する 2.共同出荷と施設整備がなされる 3.共同購入と施設整備がなされる 4.定期市が開催され施設が整備される 5.市場が定まり、流通ルートが形成される	1.健全な会計報告 共同出荷と搬入の数・量の増 組合員の数の増 2.出荷数・量の増 3.搬入数・量の増 4.定期市の開催数の増 5.出荷数・量の増	農業組合記録 調査・アンケート	必要とされるインプットが計画どおり適時に投入される。
活動	投入		前提条件
1.組織化・運営等の指導 2.共同出荷の指導と施設の整備 3.共同購入の指導と施設の整備 4.定期市開催の指導と施設の整備 5.市場流通調査 6.モデルプロジェクトの紹介と成果の普及	「パナマ」 1.スタッフの配置 (1) 責任者 2.運営費 3.車輦 「日本」 1.スタッフの配置 コンサルタント（組合育成）1人 x \$700 x 12月 x 5年 2.組合簡易施設 3.機材の整備 4.旅費 5.セミナー開催費		1.実施団体が解体しない 2.農業共同組合が解散しない

MAPA DE LA
REPUBLICA
DE PANAMA

MAP OF THE
REPUBLIC
OF PANAMA

OCEANO A



平成11年7月9日

開発福祉支援事業

「パナマ先住民地区共同組合育成」事業報告

1. 概要

当事業は先住民（ノベ・ブクレ族）自治区での貧困格差を是正するため、先住民の生活向上を目的に活動しているプロジェクトノブクレ（PNB：開発事業にかかる非営利団体）と共同組合育成事業につき契約を結び、5か村のモデル村住民の生活向上の事業実施を行っている。

平成9年12月に事前調査団が派遣され、モデル事業としての妥当性、実施能力につき調査をし、平成10年2月12日に、パナマ大統領府社会緊急基金、PNB代表、当事務所の間で、実施文書の署名を行った。

平成9年度は、平成10年3月13日に、\$10,876ドルの事業経費にて実施契約をPNBと結び、ソロイ地区の組合市場、食堂の増設、他の4地域での開発調査を行った。

平成10年度は、平成10年11月18日に、\$125,091.35ドルの事業経費にて、実施契約をし、ビシーラ地区米穀生産向上、ブエノスアイレス地区、フエプロヌエボ地区での共同組合市場（生産物物流センター）の建築、セロイグレシアス地区養鶏計画、ソロイ地区での組合市場拡充工事、および、これにともなう研修を各村で行った。

また、本事業を進める上で、モニタリング、業務管理支援、専門職種分野の技術移転を目的として、青年海外協力隊員のグループ派遣を平成10年12月16日に青年海外協力隊事務局に申請し、平成11年2月4日に、これを承認された。7月9日現在の活動隊員6名（内訳：PNB本部 プログラムオフィサー1名、ビシーラ地区 稲作1名、フエプロヌエボ地区 植林1名、ソロイ地区 村落開発1名、ブエノスアイレス地区 村落開発1名、セロイグレシアス地区 野菜1名）である。

2. 各事業サイトでの進捗状況

(1) ソロイ地区

ア. 組合経営の食堂 (写真. 1~4)

共同組合市場の拡充部分に食堂経営支援を行っている。食堂は共同組合が住宅委員会の女性グループに運営させ、毎月賃料をとっている。平成10年の4月以降、毎日営業され、十数人から20人近くの来客がある。

ソロイ村で活動する協力隊隊員などを中心に、料理講習会や帳簿の管理指導を行い、活動を軌道に乗せている。平成10年3月頃から、収益が上がり、料理当番の女性にも配当を支払うまでになっている。

女性の自立支援の面でも、効果が上がっている。

地域で唯一の食堂であり、バスの終点にもなっているため、外部からの訪問者、山奥の村から街へ出る村人に食事を提供し休憩する場所として重宝されており、集会所としても利用されている。

イ. 組合市場の増築 (写真. 5~10)

市場の第2期拡充工事を終え、平成11年4月22日には、自治区知事、大統領府長官、地域住民約400名の出席による開所式が行われ、当事業へのパナマ側からの謝意が述べられた。

市場の拡充により、PNBと協力隊員は、定期市の開催促進に力を入れ、平成11年4月からは、15日毎に定期市を開くように組合内部規約を改正し、毎月1日、15日に地元の農産物、手工芸品などを持ち寄り販売し、現金収入、物流の活性化を図っている。

ウ. コーヒー生産向上 (写真11) 12月

自給用作物の根菜類以外に、本地区で唯一栽培可能な換金作物であるコーヒーの生産性向上のため、PNBは組合員と会合をもち、コーヒー皮剥機の購入が11年度事業として計画されている。

エ. 研修

組合活動、組織化のセミナーが平成10年度7回、開催された。

6 404年同形式 (FIDA 中興学舎の視察)

(2) プエノスアイレス地区 (写真12~13)

共同組合市場 (生産物保存・物流センター) が、完成した。

平成11年度は、本施設の有効利用と米穀を中心とした販売用余剰生産物の生産性向上が課題である。

共同組合員に対し、組合組織化に関するセミナー、説明会が開かれた。

(3) セロイグレシアス地区 (写真14~15)

平成10年度予算にて建設された養鶏小屋についての、技術講習会及び組織化・商業化に関する研修が、PNB開発センターのコーディネーター、農業技師により実施された。平成11年度は、養鶏事業の拡充、コーヒー加工を計画している。

(4) プエプロヌエボ地区 (写真16~19)

共同組合市場 (生産物保存・物流センター) が、完成した。

組合の活動は、他の4モデル地区と比べて最も活発である。

共同組合市場ができたことにより、販売食品・雑貨などの購入資金、および必需品の一部 (総額約3万ドル) をPNBが、同組合に貸し付けた。

今年度は、同資金を基に雑貨・食料品の販売を行う他、土産物工房・市場の建設が要請された。また、物流センターはチリキグランデ市の海沿いに立地し、漁民組合員もいることから、水産物にかかる調査を計画している。

(5) ビシーラ地区

昨年赴任した稲作の協力隊員およびPNBの農業技師を中心に、当事業で購入した米穀精製倉庫を利用し、米穀の生産性向上を図っている。

平成11年度は、米穀精米施設の隣に保存・物流センターを設置し物流の活発化を図る。

3. 問題点・課題

(1) 事業サイトが5か村で広域にわたっており、各村の共同組合の組織率、機能に差異があること、また、ターゲットとなる商品作物も各サイト毎に多岐に亘っているためPNBにとっても事業の進捗状況の管理が困難な状況にある。

また、PNBに開発福祉支援事業の専任職員がいないため、計画申請、報告等が遅れがちなこと等に対し、業務管理部門の強化を図る必要がある。

(2) 平成11年5月の総選挙のキャンペーンが、半年前から活発化し、先住民間でも与野党の対立が激しく、共同組合の組織化、研修の実施に少なからず影響があった。

選挙の結果、野党のミレイヤ候補が勝利を治めたので、PNBを統括する大統領府社会緊急基金(FES)への対応に留意する必要がある。

以上

7 PNB との協議事項 (隊員からの希望事項)

平成 12 年 11 月 15 日

青年海外協力隊調整員

川口 利 殿

PNB の今後のスケジュール及び将来発生すると思われる問題点に関して下記の通り報告致します。

1. PNB のスケジュール

- 2000 年～2001 年 PNB 資産の帰属についての Cooperativa の話し合
現在 1 回/月のペースで実施中
- 2000 年 3 月 PNB 所属資産の分配についての Comité de Directivo の決定
- 2000 年 6 月 各 CD の coordinador の解雇
- 2001 年 12 月 FITA からの援助終了、PNB の組織解散、管理部門のみ残留
- 2001 年 6 月 管理部門解散、PNB の終了

2. 将来発生すると思われる問題点

① 隊員の生活拠点としての CD の使用権

将来は CD の所有権が各組合に移行すると思われるので、CD を現在のまま隊員が使用できるかどうか不明である。特に隊員の配属が FIS になった場合、各組合からの便宜供与がどのようにになるかが不明確である。

② カウンターパートの不在

現在、隊員活動のパートナーとして活動している Coordinador が 2000 年 6 月以降不在となるので、技術移転・生活面でのサポート等の問題が発生する可能性が考えられる。

③ 配属機関

現在の PNB の上部組織である FIS に隊員が配属となった場合、FIS は実質的に Comarca 内に出先機関を持たないため、隊員活動へのサポート・便宜供与が難しいと思われる。

④ 組合組織

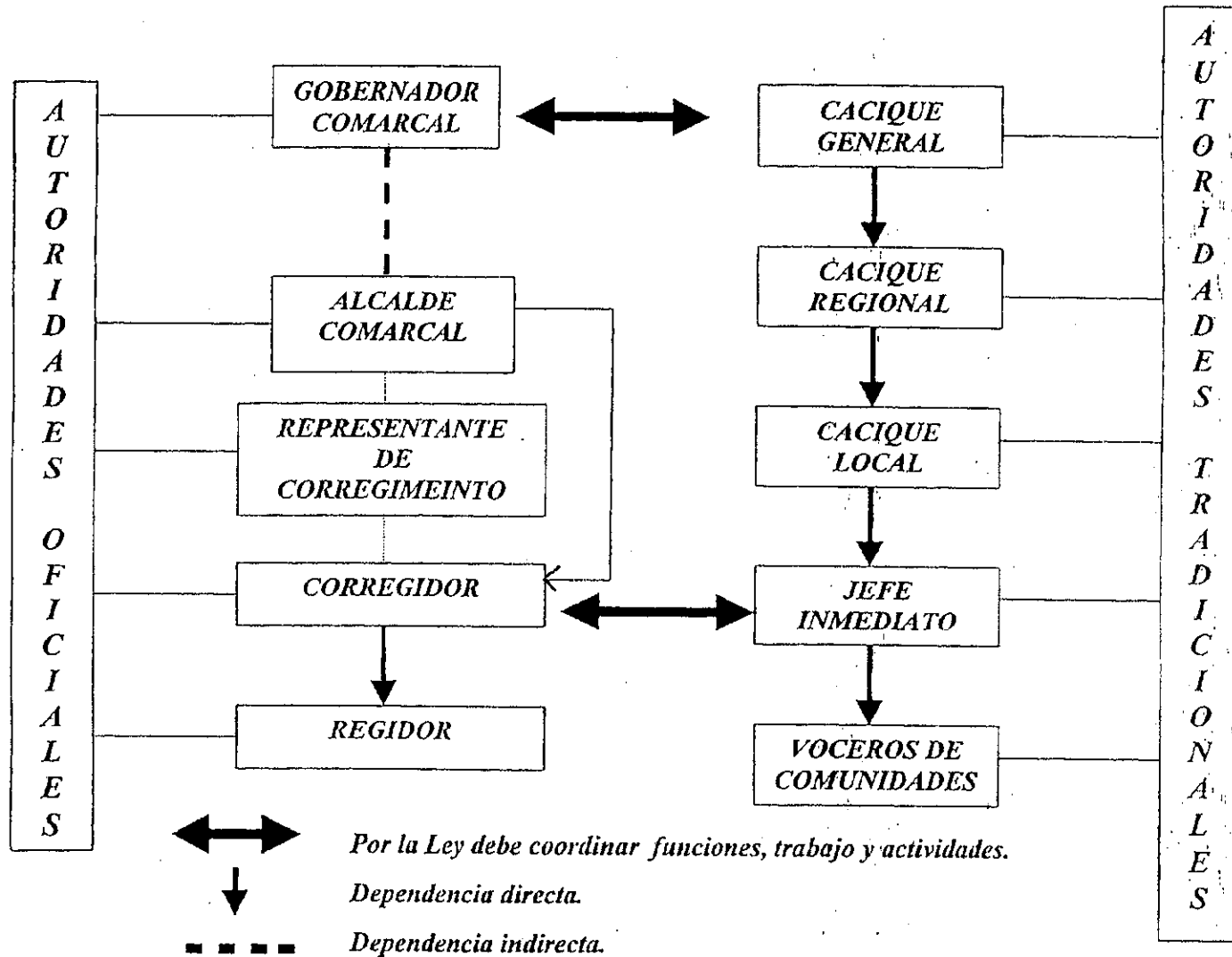
現在隊員が活動している地域での組合組織は、非常に脆弱でありそのサポートを PNB が行っていたが、FIS 又は IPACOOOP がどこまでその機能の代行が可能か不明であり、組合を通じた隊員活動に困難が予想されること。

⑤ ノベ族、ブグレ族自治区の組織

99 年より自治区に指定され、以前より congreso(議会)の発言力が強まると考えられる。警察等配属されていない自治区であるため、今後の隊員活動に何らかの影響が考えられる。

等の問題点が考えられます。

INTERRELACIÓN ENTRE LAS AUTORIDADES ADMINISTRATIVAS OFICIALES Y TRADICIONALES EN LA COMARCA NGÖBE BUGLÉ



Fuente: PAN-ANAM-GTZ. Utilizado en la elaboración del Plan Estratégico para el Desarrollo de la Comarca Ngöbe Buglé.

パナマ青年海外協力隊巡回指導調査団調査報告書

平成12年12月

国際協力事業団

青年海外協力隊事務局「青海」

JICF
618
36
JY2
LIBRA